

婦也御



第六卷
第八號

東京
弘道館

首

婦人と子ども第六卷第八號目次

卷首 自然の友

婦人と子ども

家庭と蔬菜栽培……………牧 羊…一

小兒の救護事業……………文學士 下田 次郎…二

暑中休暇と家庭……………女高師 教授 黒田 定治…九

同……………女高師 教授 中村 五六…二〇

嘘の價值……………文學士 巖谷 小波…三

子供と浮和雷動……………芙 蓉 生…七

新夫婦の理科問答……………本 郷 生…二〇

齒の衛生……………某 醫…五

實驗上の育兒……………醫學博士 瀨川 昌耆…七

短歌……………真宮 起雲…五

黒子と笑顔………………七

アメリカの長松……………朝 露 生…完

淀橋浄水工場……………一 幹 事…完

雜 錄 數件

子 ども

花ちゃん……………芙 蓉 生…一

お祖父様の肖像……………彌 彦…二

カンニトフェルスタント……………豐 子…二

◎ 大好評嘖々の新刊書 ◎

學習院女學部長 下田歌子女史新著

女子の修養

和装全一册
頗ル美本
正價金七拾錢
郵税金八錢

卅世紀女子教育の生粹
新家庭經營整理の寶鑑



本書は著者が女子教育の往々形式のみに流れ其の實質を失ふの憾あるを慨き嶄新の學理を緯とし平素の經驗を經としてものせられたるもの文章平易所説懇篤凡そ廿世紀に處する女學生及び閨秀の本分を全ふせんを期するもの須く本書なかる可からざるなり

發 兌 元

東京京橋區南大工町一番地

弘 道 館

電話本局二八四〇番

前付一

賣捌店は全國到處の有名書籍店にあり

小兒科專門 小原頼之先生校閱
女子高等師範學校教授東基吉先生編著

新案 育兒日誌

● 子ある家庭には必備の寶典

本書は東先生完全なる育兒日記のなきがために世の父母が兎角子供の日記を記し行くを怠り
が從來我國に記入の方法の簡便なるが附録兒童身體發育表、小兒の脈搏、體温、齒牙、睡眠、
の主成分一覽表等に至りては小兒科專門小原先生の指示と校閱とにより實驗的育兒法として又從來
りて懇切丁寧に記載せられ殊に育兒のことは一々實例を示されれば實驗的育兒法希に見らるゝ
の如きといふべく其他教育上の注意を子どもある家庭からは是非とも備へざるべ
品の書として最も適切文明的なる家庭からざる良書にして又
品書は最も適切文明的なる

注意!

本書の定價は殆んど白紙の代價に等し。白紙の代價を以てして有益無比の本書は購求せらるべきなり

發 兌 元

東京市京橋區南大工町一番地

弘 道 館

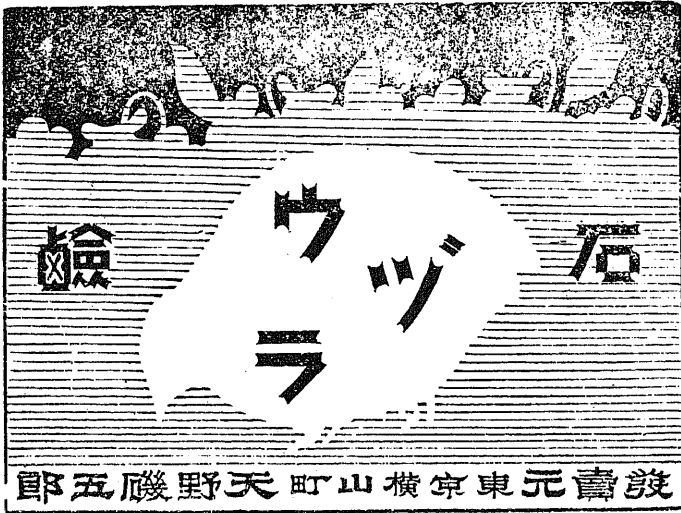
(電話本局二八四〇番)

(舶來上等紙摺)
洋裝美本 紙數凡そ四百五十頁

定價四十錢(總クロス) (全一冊)

特製五十錢(脊皮洋裝) (全一冊)
郵稅各八錢

質品るな良純



香の香麝るな良佳

群馬縣師範學校校長 羽田貞義
新潟縣長岡高等女學校教諭 小澤錦十郎
兩先生合著

母のための教育學

前付の四

全一冊

和裝美本

定價

金五拾錢

郵稅

金六錢

本書は著者が學理を緯とし經驗を經として懇切に家庭教育を説かれたる無二の良書なり

家庭教育を全ふせしめ以て一家の繁榮と社會の幸福を増進せしめんと欲する母たる人又は將來母たらんとせる人否家庭教育の任に當る人は本書を讀まざるべからず

學校教育の完成を期する者も亦本書を讀まざるべからず如何となれば家庭が如何なる主義方針で教育しつゝ居るか又教育せんとするかを知るは教育家に最も必要なる要件なればなり

本書の特長一二を擧ぐれば

一、本書は家庭教育の範圍を最も廣く解し第一胎教第二小學校以前の家庭教育、第三小學校時代の家庭教育、第四小學校以後の家庭教育の四期に分ち之れを科學的に説明せるにあり

二、心身の發達を基礎として各時期の體育智育德育を説きたるにあり

三、文章を談話體にして解し易からしめしこと

四、餘論として道德の概念心理概論及教育の法を説きたり殊に心理學を著者の經驗上より具體的に説き難解の心理學をして容易に解せしむるに勤めたりし事等にあり

發行所 東京市京橋區南傳馬町二丁目 目 黑書店

優等深大金色罐入

登錄商標 **蜂印靴墨**

香川縣博覽會に於て金牌を受領す内國製
 產品評會に於て一等褒狀受領第五回内國
 博覽會に於て褒狀を受領す



優等鷹印靴墨本舖

東京淺草區
 諏訪町

松崎商店
 特電話下谷千八百十八番

一本品の如き感
 ありと雖も
 品質良好に
 品入深大の
 比入的廉價
 なり比較的
 本品は靴皮
 を柔軟にし
 且耐少せし
 水又溶し使
 用すにば直
 澤に美なる光

麝香とミスレとばらの香料を合む

小判

小十二錢
 大二十錢

東京本町三寶堂發賣本電一五七

美術造花材料



各女學校御用

附屬品并に造花器械類一式
最新夏期用材料

舶來薄絹シホン

ホワイト、リーブス

兩品見本御入用の方は郵券四
錢御送附を乞ふ

東京市日本橋區横山町一ノ一六

天野卯兵衛

電話(長)浪花一六四三番

營業目錄御入用なれば此廣告を添へ御申越被下度候

(婦人と子供)

前付の六

友 之 然 自





婦人と子ども

第六卷第八號

家庭と蔬菜栽培

横井農學博士が嘗つて云つたことがある

農家と農家ならざるを問はず、都人と田舎なるとを問はず、各自庭園の一隅に蔬菜を栽培するは、實益上は云ふ迄もなく、家庭教育上極めて有要なるものなり。殊に兒童をして親しむに從事せしめらば、或は科學的智識を收得する機会を與へ、或は勤勉の風を養成し、或は身體の發育を佳良ならしむる等、其利益計り知るべからざるものあらん。蔬菜は其生育期間短きを以て、原因結果を尋めるに早く、従つて兒童の如き性急なるものに栽培せしむるには、最も適應したる仕事と云はざるべからず。又其結果は花類杯と異なり、之を食し之を味ひ得らるべきが故に、興味また自から深からざるを得ず云々と

又記者の知人に某會社員があるが、其家の夫人は頗る蔬菜、栽培に興味を持つて居て朝は冬でも五時夏は四時位に起き出で、下女が米を炊き汁を煮る間に熱心に二三十歩許りの畑の世話をして居る。暮の盛り時など出掛けて行つて頗る美事なものを馳走になつた事も度々であつたが實際横井博士の云はれる通り其夫人は是によりて種々の利益を得て居つた様である。記者嘗つて其夫人に調戲ふ積りて

「夫人夫れで八百屋から買ふのに較べて何の位利益がおりますか」と聞いたれば此夫人は

「い、え、經濟的には大した利益はありませぬ、地面を貸して高い地代を採る方が割でせう。利益は夫れよりも無形の方面に多い様です」とて

家族子弟をして勞働の神聖なることを悟らせ閑暇徒食を戒むる活教訓を興ふるに恰好の材料にして生産の容易ならざることや樂は活動の中に求む可きものなることを知らしむるには此方法が最も我家庭に適せる様に覺ゆときめつけられて大に教へられる始末となつて急に眞面目に主婦の活動論を戦はした事があつた。爾來幾年の今日家庭園藝の聲漸く大きく本年の暑中休暇などには所々に此種の學術に関する講習會なども開ける様になつたのは頗る快心の次第であるが希くは一時の流行でなく永續させたいものである。(牧羊)

小兒の救護事業

文學博士 下 田 次 郎

西洋では勞働者殊に女子が日中會社工場などに出で、勞働に従事して居る間、困るは其子供の仕末である、固より家裕にして乳母や留守番の置けるほどならば、女は勞働に出掛けはすまいが、糊口の爲め止むを得ず出るので、一、番子供の仕末に困るのである、そこで子供預り所(託兒所)といふものが、都會には出來て居て、朝出勤の時小兒を其所へ預けて置いて、日中其世話をして貰ひ、夕歸る時立寄て小兒を連れて行くやうになつて居る誠に良い仕組である、それで今自分が實際見た託兒所の一二を紹介しようと思ふ。

始めに見たのは獨逸のライプチヒ市の一託兒所である、(明治三十四年一月十九日朝午前參觀)。此日

は土曜で少く四十人許りの小兒が居た、平常は其倍位來るといふ。世話をする婦人が二人付いて居た、子供は幼稚園に行く位の年配の者ばかり、中には腫物のある者、破れた着物を着て居る者も居た。仕事は大抵幼稚園で爲るようなもので、行つたら、特別に小兒に色々やらせて觀せて呉れた。

「獵人」といふ遊戯は「獵師」三人、「獵犬」三匹で一匹の「兎」を追ふのである。「郵便」といふのは、驛車を形取りて、二人が馬となつて前に立ち、それに綱をつけ、一人が郵便屋となつて後から綱を持ち、その綱と綱との中に四人の子供が這入つて場内を廻るのである、他の子供は圓形になつて二驛車の廻るに合せて歌を唱ふ、其他徒手體操、行進運動をもした、皆それに合ふやう面白い歌が出來て居る。

次に見たのは、巴里の第五區ブラス、モンジュといふ所の一託児所である。(三十五年二月四日參觀)。託児所のことを佛國ではクレシユといふ。自分の見た託児所は新築で、萬事能く整ひ、理想のものである。家の前部に廣い一室があつて、中央に圓形の低い木の手すりがある二重に出来、子供が其内、又は外に立ち、又は倚れて遊ぶやうになつて居る、室の周圍には椅子が並んで、大勢子供が座つて居る。又室の壁に沿つて鍵の手に子車が十計り並んで、上から天幕のやうに覆ひが掛り、中に、赤兒が寝て居る。次の小さい室には、寢臺が澤山備へてあつて、食後など子供が眠くなると、此所に寝かすのである。その次の部屋は二つに仕切り、一方は庖厨で、子供の食物を調へ、牛乳など貯へてある、他の一方は病床で、病氣の時はこ

へ連れて来る。奥の左側は風呂場、便所となつて居る、子供は中々便の世話が厄介である。寢床を始め、すべて極めて清潔である。子供は生れて十五日の者より三歳までの者を預り、定員は三十人であるが、申込みが多くて入れ切れぬといふ一日十五サンチーム即ち六錢を拂へば、着物から食物をすつかり給して、世話をして呉れるのであると、(向ふでの六錢は、日本では二錢にも當らぬ)世話をする婦人が二人、一人は助手で一人は主任で、子供は皆主任の人をマンマ即ちお母さんと呼んで居る。此託児所の設立及び維持は市よりの出金及び寄附金に依るといふ。第五區だけでクレシユが三つある、巴里には二十區あるから、全體では餘程あるであらう。

西洋には斯様に唯日中子供を預るのみならず、棄

兒、貧兒、孤兒等を引取つて養育し、教育する所がある、其自分の見たもの、中で、最も大規模に出来て居て、感心したのは、伯林のと、巴里のと、聖得斯堡のとである。

伯林で見たのは、アルテ、ヤコブ町の孤兒院である。(明治三十四年六月二十一日午前參觀す)院長シューステル氏親切に案内せらる。此所には赤兒より十四歳までの者を收容し、六百十八人居た。收容の際には先づ湯に入れて身體を清潔にし、病兒は別居せしむる。行つた時には、外來室に二十人許りの子供が居つた、多くは顔色蒼白にして、營養不良を示して居た。平常大きな子は湯札を持つて町湯にゆくことが出来る。衣服、制服(黒色、帽子、シャツは院より供給せられ、又一年に靴一足、毛糸の靴足袋二足を貰ふ。其他外よりの着物

シャツなどの贈物が澤山あつて、それ／＼分與される、寢床は簡單で、頭の所に引掛けのある棒があつて、それに衣服を吊し、下の所には、齒磨、楊枝を入れる囊がある、朝は六時に起き、八時半に寝る、尤も幼兒は此限りにあらず、食事は六歳以上の者は食堂に行き、祈りをして後食す。飲料は一切水、料理人、肉と馬鈴薯を出して我々に試食せしめた。大きな娘は次の室で別に食事する、生徒の中から取締を命じて世話をさす。食後は運動場に出て散歩し、中には砂いぢりをする小兒もある。院内には學校があつて、大きな小供は教育せられる、十五歳以上の娘で、嘗て此處に居た者が、家政等を習ふために此所へ来る者もある。嬰兒の養育は、醫學の發達せる獨逸國、殊には其首府のことにて、設備も世話も實に行届いて居る。

嬰兒が二十四人居た、定員は六十餘人といふ、赤
 兒は生れて八日目のもの、二週間位のもの、色々
 あり、雙子も居り、皆小い寢床にねて居た。病室
 傳染病隔離室もある、乳は子の質によつて種々の
 濃薄、混合、分量あり、乳の壘を運ぶ器、乳を溜
 める器械、砂を入れて洗ふ仕掛け、皆精巧に出来
 て居り、浴室、病室、藥局、洗濯所、乾燥室など、
 孰れも設備が完全である。嬰兒收容所は五年の後
 には、二倍以上に擴張せられるので、今は出来上
 つた一部分に收容して居るのであるといふ。此方
 はドクトル、パッチンといふ醫師が委しく案内せ
 られた、今一人醫師が居るといふ。此院の外、伯
 林附近にクラインペーレン、ルンメルスブルグ、
 リヒテルフェルデの三ヶ所に孤兒院があつて、伯
 林市より毎年凡百八十萬マルクを支出するといふ

パリには小兒救護院といふて、パリの南部ダング
 エール、ロシエロー大路にある、明治三十五年二月
 七日參觀、此所は棄兒、貧兒、孤兒を收容し、又
 日中子供をも預る。一體佛國は、人口が餘り増さ
 ず、寧ろ減する傾がある、佛國では生活の困難と
 か、他所並みとかの理由で多くの小供をもつを欲
 せず、人工の避妊を行ふて二人の子供に止める親
 が随分ある、親二人に子二人ならば人口が殖へぬ
 譯である、パリなどでは申し合せたやうに二人以
 下の子を有つて居るものが多い。そこで國家の繁
 榮上、國又は市などが、棄兒を收容し、又は棄て
 ぬ前に持て越さして、之を公費で養育し、以て人
 口の増殖を謀つて居る。此パリの少兒救護院は、
 其主なる收容所の一つであつて、内に棄兒養育院
 がある、行つた時には十五六人の棄兒を收容し、

乳母が附いて乳を吞まして居た、又月足らずの子をも保育する器が二つあつた。救護院の入口には子供受取所がある、棄兒は警察が拾ふて持て來る又は母が子を渡すのもあり、親が黙つて持て來て置くのもある、棄兒養育院の傍に別に一棟の傳染病室がある。

又本館には幼い孤兒を收容して居る。長い室に三歳以下と思はれる子供が、三十餘人一方の窓に沿ふて一列に椅子に腰を掛けて居り、中央に木馬が置いてあつて、保母が二人附いて居つた、子供の行水もしてやる。又寢室が澤山あつて、病氣の傳染を慮り、各室の中に硝子の仕切りがあつて、四隅に寢臺が一つづ、五十近くも置いてあり、乳母や保母が多く附いて居る、此外父母が日中勞働の爲めに子供を預ける所があつて、三歳位までの子

供が三十人位居つた。二室に仕切つてあつて、運動遊戯も出来る、行くと子供が握手せんと争ふてやつて來て、中にはお菓子とせがむ者も居た。又亦兒から一歳位までの子が二十八人預けてあつて、子車にねて居た。父母の病氣中又は極貧で、其子を預るのもある。

大きな子供には男女の寄宿舎が別々にあり、其内に教場もあつて、普通教育が授けられる、女兒は十歳前後の者が四十餘人居り、女教師と助教の女と二人で授業して居た。男兒の方は五十餘人の一組があり、別に十三四歳以上の者十人計りの一級がある、食堂は餘りきれいではない、此兩寄宿舎は家も古くて、むさくるしい、二階から四階までは寢室である、寢床は清潔で、左右の窓に沿ふて並んで居る。大きな男の子の寢る所は、談話を防

ぐために分房となり、前面は柵で仕切つてある。
 又懲戒室が三ツ四ツあつて、悪い者は之に閉込め
 外から錠を下す、戸は格子形になつて居る、寢室
 には番人の寝る所もある、運動場は男女大きな子
 小さい子により、別々にある。
 此救兒院には生れた其日の赤兒より廿一歳迄の者
 を收容する、子供は此所で受取り地方の救兒院に
 分けて送り付けるから、子供の出入常ならず、二
 三日で出る者もあり二三週間で出る者もある。
 ロシアの首府ペテルブルグで見たのは嬰兒の養育
 院である。(明治三十五年五月二十三日參觀) 此所
 には八百五十人ばかりの赤兒を收容し、中には月
 足らずの兒もある、まだこれより多數の時もある
 といふ。乳母は夏になると他に儲けがあるから不
 足勝で今も不足である、モスコイなど工場が多い

所では、乳母の不足が一層甚しいといふ。赤兒
 の百分の十五六は棄兒であつて、後は私生兒とか
 又は貧乏で父母が養ふことの出来ない者を持って來
 るのである。中には母を子に附けて其儘入院さす
 こともあるが、母は多くは之を嫌ふといふ、病室
 などもよく備はり、傳染病室は別になつて居る、
 又種痘用の犢が畜ふてある、パンは内で拵へる。
 ソップにも品々ある、肉もあつて食物は良い。收
 容せる子供の中には、私生兒も少くなく、身分あ
 る者の落胤なども名を隠して斯んな所に容れられ
 ることもあるとかでそんなのは自ら入院費も高い
 といふ、ロシアには斯る養育院が方々にある。ペ
 テルブルグの養育院には赤兒を數ヶ月置いて、そ
 れから地方の養育院へ送り、地方で育てるのであ
 る。院内には養育室が幾つもある、そこを通る

と十數人の乳母が赤兒を抱いて列を作つたやうに立つて丁寧に挨拶する、皆白い着物に赤い帽子をつけて居る。其外子供受取所、診察所、外科手術所等がある、又月足らずの兒を養ふ所では子供を衣服に包んで、寒暖計を挿して居る。斯る養育院が近傍に又新たに出來るといふことであつたら、今はもはや出來たであらう。此近所に子守の學校もある由だが見なかつた。參觀 中副院長と女頭のメダルを胸に多くつけたのが附添ひて案内された。

斯る託兒所、救兒院などは、文相の社會には必要なものであるが、日本にはまだ備はつて居ない。東京の築地本願寺の一隅に託兒所が出來て居る。うながそれは、出征軍人の幼兒を託するためのもので廣く労働者貧民等の爲めの常設のものではない。

い、望むのはこの常設の者で、且方々に多く出來ねばならぬ。労働する女が、脊に子を締め括つて、車の後押をしたり、物を運んだりして居るのを見るとき、氣の毒になる、眞の文明は表面の修飾のみならず、裏面の整頓改良がなくてはならぬ。而して斯る事業は、婦人の率先盡力すべき事であると思ふ。

聞く所に因ると築地本願寺の出征軍人の保育所は今度永續して學士の所謂託兒所にする由頃日の新聞に見えた。そして尙ほ事業を擴張し軍人の幼兒に限らず一般に内職の爲め晝間兒女の保育に手廻り兼ねる者を收容し進んで同區以外他區居住者の需めにも應ぜん目論見にて近々協議會を開き決行すべしと

暑中休暇と家庭

女教師教授　黒　田　定　治

附屬の小學校は一部二部三部の三組に分れてゐて一部二部の方は中流以上の兒童が多いのですけれど三部の方は灰買娘もありすれば砲兵工廠の職工、人力車夫、巡查、會社の集金人、大工、左官、理髪道具の製造人、鐵道驛夫、版木職其他種々の業務に従事して居るもの、子女が多いので暑中休暇中の事に就ても種々と協議を凝しましたけれど之れと云ふ名案もないので困つて居ります、先づ差當り毎朝時間を定めて起きさせ涼しい間に二時間許り父兄の方が監督して復習をさせて貰ひたいと云ふのが私の希望でして、従來宿題などを出した事もありませんが、大抵は學校の始まる間際になつて違て、答案を作つて出すと云ふ風ですから何

にもなりません、私が七八年前に暑中休暇中朝二時間宛生徒を學校へ集めて復習させた事もありませんが暑さが烈しくなると生徒の方でも出るものが少くなる途には一人も出て來なくなりましたから到頭罷める事に致しました事もありません、一体に暑中休暇後學校の始まつた當時は健康状態は平素よりも劣つて居るやうに思はれます、一部二部などの中等以上の家庭の兒童は避暑の方法も種々と家庭で處理して居られますから別に心配はありませんが三部の方の生徒は避暑に行くことと云ふ事も出来ず只家に計り居て赤兒の傳をするとか間食でもするとか云ふ様な事のみでありますから、今年も出來得る生徒徒には休暇中の日記を造らせる事に致しました又貯金の加きも休暇中に貰ひましたのは溜て置まして休暇後參校の時學校へ出すやう

に申して置きましたから本年は割合に好い結果を見るだらうと思ひます、尤も是等の方法に就ては家庭の方で充分に監督をして下さらないと中々難しいので私も子供がおりますから休暇中は只今お話し申したやうに致す者へで居ります云々

◎新學士の求婚條件 某大學教授の奥さんの話といふを聞くと、從來大學出の新學士達が嫁を買らふ第一の條件といへば金といふとで夫から容貌に教育といふ段取であつた、所が近來は先づ蔓といふ事を詮議する▲芋の蔓か茄子の蔓かと、質して見ると夫は權威の蔓である▲娘のおやちどんが何んで、親類に何爵が居るとか居ないとか、次官の何がしに蔓があるイヤ陸海軍の方に縁が續て居るなど、蔓詮議を盡してから、さて令容貌教育となる▲別に不思議な沙汰でもないが並に一つの不思議といふは教育詮議の折第一に目指されるのが華族女學校で次はお茶の水、夫から跡見女學校といふ順序で女子大學を望むのは殆ど皆無なばかりか鼻であしらふやうな傾きがあるさうな

暑中休暇と家庭

女高師教授 中村 五 六

十

暑中休暇の間は田舎住居をさせて自然に接觸する方が知識を啓發する上にも亦身体を養ふ上にも兒童の爲に良いと思ひます、例へば木の葉の落ちるのや水の流るゝ音などは兒童の非常に楽しみ喜ぶ處ですが之れは都會に居ては兎ても駄目です但し田舎住居をさすにしても決して規律を紊すやうなことがあつてはいけません、どうせ遊ばすのだから何うでもよいと云つたやうに打棄り放しにして置くくと自然に規律が紊れます、そこで一般の兒童が誰れでも田舎住居が出来ると云ふに、先づ中流以上の家庭ならば別荘もわらうし或ひはまた旅館などへ連れて行つてゆるゆると愉快に遊ばせることも出来やうけれど困るのは經濟其他の關

係より其様な餘裕のない家庭の兒童です、終日何もせず家内で遊んで居ると第一運動が足らず又變化と云ふものがないから自然不愉快に日を送るとなる、すると食物に拘はる、兄弟喧嘩をする果は焦れる、この焦れさすと云ふ事が教育上甚だよくない事で、焦れると何うしても心が悪い方向に善とか美とか徳とか云ふ事が心に起らなくなる、そこで此種類の家庭では休暇の間何か小さな仕掛で難かしくない仕事を兒竟に宛てがふのが必要です、例へば少しでも空地のある家なれば無造作な花壇のやうなものを築いて夫を弄らせるなど云ふ事は尤も良い方法であります、私共の家庭では何うする事も出来ないから先づ疊一枚位の處で満足して、此處へ花壇を作つて勝手氣儘に弄らせ四角ばらぬ規律の間に愉快に生活させる事を圖

つて居ます、西洋では幼稚園主が主宰者と成つて暑中になると海濱に家を借りて先生が連れて往つて遊ばせるとか又は山間に天幕を張つて此處で愉快に遊ばせると云ふ様に組織されて居るが我國では今直に之を實行する事は難かしいのです、何故かと申しますと中以下の家庭の多くは子供の一人や二人あつたからと云つて然程生活費の上に違ひはないけれど之が爲に別に監督費とか食料とか旅費とか云ふものを支出して遊びに出すのは随分困難ではなからうかと思ひます。

中以下の家庭に在つては暑中休暇(冬季も)などは寧ろ無い方を希ふものが多い、それと云ふのも畢竟家庭にばかり在るよりは小學校なり又は幼稚園なりに在る方が實際宜しいからであるが、それかと云つて丸ツきり休ませぬと云ふのもよくないか

ら二ヶ月の休暇を一ヶ月に短縮して小學校の方ならば平日の課業のやうに四角ばらずに遊ばせながら課業を修めさせるのが良い方法であらうかと思われす又一方では學校や幼稚園で授業中なり授業後なり程よい時間に温浴でも水浴でもとらせて教師や保母が洗つてやる位の面例を見て小兒等をして身神共に爽快ならしむると云ふ様な設備をしたら、暑中休暇中田舎住居の出來ぬ兒童等を此處で遊ばせる事も出來、平日でも亦大なる効果があると思はれます、西洋では近郊に遊泳場の様な所が出來てゐて何人でも僅少な入場料を拂へば遊べる組織になつて居りますが、東京市附近にも斯う云ふものが一つあれば中以下の家庭の兒童の爲には餘程便利な事は云ふまでもなく、此外にも今一つ近郊に小山を築いて、それに樹木が茂り水

でも流れて其時々草花などを兒童自身に培養させるなり植ゑさせるなりする花壇を築いた大遊園場を設けて入場料も取らず父兄達も附添人も自由に入場することにして都下の小學校や幼稚園生を遊ばせる様にしたのです、尤も是等の設備と申した處で富豪中で賛成して下さる方があれば容易く設ける事が出來ませう、私は是非設けたいと思ひます云々

◎有害な白粉

- 襟おしろい ▲ 菊童おしろい ▲ 白菊おしろい ▲ 富士みかた ▲ 雲井 ▲ むつ花 ▲ きく童 ▲ 麝香玉 ▲ クイン白粉 ▲ ハート白粉 ▲ 新スミレ白粉 ▲ 無害水晶 ▲ 今美人 ▲ 音羽菊 ▲ 初霜 ▲ 花の雪 ▲ 花玉白粉 ▲ 新花王 ▲ パイオレット ▲ たつた ▲ ローヤル白粉 ▲ 都の花
- ◎無害な白粉
- 白ゆり ▲ 御園の雪 ▲ 御園の月 ▲ はなクラシン ▲ かえでエオフキリン ▲ 水晶おしろい

嘘の價值

巖谷小波

▲今日は盆の十六日だ。地獄では釜の蓋が明くと云ふではないか。イヤ地獄と云へば、閻魔は嘘が大嫌ひで、嘘をついた者は、皆舌を引抜くと云ふ。それに付いて、この娑婆で僕聊か説ありだ。

▲成る程、嘘つきは泥棒の初まりと云つて、無論良くない事に相違無い。が、その嘘にもよりけりで、一概にはさう云はれまいと思ふ。

▲全体嘘に二種ある。一は嘘らしい嘘、二は真らしい嘘だ。嘘らしい嘘とは、誰が聞いてもすぐ嘘と解る嘘、真らしい嘘とは、何人もつい信用する嘘だ。

▲向ふ横町で今掏摸が捉まつて、大勢に撲られて居るぞ。好い氣味ぢやないかと、口から出まかせ

に云つても、直ぐ真に受けて、ドレ〜行つて見ろ、行つて見ると、野次馬はすぐ駈け出すだらう

……………これは真らしい嘘の例だ。

▲先刻裏の山へ行つて見たら、雷が太鼓を枕にして、グウ〜晝寢をして居たぜト云つても、誰もそれを本氣に聞て、まだ居るか知らん、見て來てやらう、杯と出て行く馬鹿があらうか。……………嘘らしい嘘とはかう云ふ物だ。

▲其所で前の嘘に對しては、詐された人が屹度腹を立てやうが、後の嘘に對しては、寧ろ臍の皮を捻るだらう。……………それ前者は憎むべく、後者は愛すべき所以である。

▲今一つ例をあげて見れば、彼の讀本の「狼來れりは」即ち前者に屬するもので、曾呂利の御前お伽噺の如きは、後者の粹とも云つて可からう。

▲此點から云ふと、眞らしい嘘は罪になるが、嘘らしい嘘は却つて無邪氣なもの。閻魔も前者の舌こそ抜け、後者には寧ろ手を拍つて、?更に次を所望するかも知れない。

▲されば彼のお伽噺の如きも、即ち嘘らしい嘘として、無邪氣に、可憐に、愛らしくこそあれ、之に對して肩を擧め、乃至額に筋を立つるものが、何所の國にある。

▲然るに何事ぞ、此頃何とやら云ふ博士殿は、何所やらの演説で、お伽噺類を排斥し、精神病者の多いのに、之に依て迷信を養成されるからだと言はれたげな、天晴れの誤迷論、僕等は只アツと云ふ斗りだ、

▲世の中には、牛乳飲み過ぎて、腹を下だす人もある、而も衛生局は、牛乳を有害物として、之が

飲用を禁じては居ない。

▲衆生濟度の難有い御宗旨も、凝り過ぎると飛んだ氣紛れ者を出す、而も内務省は、佛寺教會に鐵柵を結つて、之が參詣を禁じては居ない。

▲お伽噺は成る程嘘斗りだ、が、それは皆嘘らしい嘘、即ち邪氣の無い嘘斗りだ、偶々子供心に之を信じたとしても、一方に學校と云ふものがあつて科學教育に脱目の無い以上、誰が何時まで此の嘘を信じて、智識の發達を妨げられやう。それを彼是案じるのは、所謂子供心を解せぬと云ふもの。愚にも付かない取越苦勞だ。

▲又空の穴の狭い先生方は、子供の空想を助長すると云つて、此種の讀物を嫌ふ様だが、此等も一知半解の迂論、所謂道學先生の鼻元思案で、實に臍茶の至である。

▲空想！ 空想が何故悪いだらう、何ぞ知らんこの空想がやがて理想となり、果は實行を促す基となる。此位大切なものは無いのだ。

▲お伽噺には、一ト跨ぎに三千里を飛ぶ靴がある………此空想に趣味をもつた子供、大きくなると理學を研究して、一時間何十哩の汽鐘車を發明する。

▲お伽噺で龍宮に遊んだ愉快は、他日の海底旅行を企てしめ、或は北極探險を思ひ立たせる、此皆空想の賜物では無いか。

▲有体に白狀すれば、僕の如きは子供の時分に非常な迷信家であつた。幽霊、妖怪のある事を信じ天狗、山男のある事を信じ、狐の人を誑す事、狸の入道に化ける事、魔法の事、呪咀の事、皆信用したものだ。

▲然し今日の僕は、決してさう云ふ迷信家ではない。が、かう云ふ良からぬ迷信でさへ、或る點までは詩的の趣味を感じて居る。………イヤ此の世の中の事を、さう一々物質的に解しては、少しも面白くは無いからねエ。

▲僕は生憎眼の性が良いから、さう云ふ事は解らないが、極の近眼の人に聞いて見ると、その自由は無論であるが、まゝその視力の悪い爲めに却て普通の眼では見えない、意外の色彩や輪廓が見えて、大いに美を感ずると云つて居る。

▲之に反して、此處に顕微鏡の様な、非常に眼の良い人があるとす。所がその人は、いくら美しい花を見ても細胞組織まで、見え透て、少も美を感じない斗か、偶々甘い物を食はうとすると、その邊に遊離して居る。塵埃や微菌が眼に付いて、

何うしても手を出さず事が出来ない、それでは不自由な話だ。

▲所詮 此世の中の事は、ある點までは空想で持たものだ、その空想と云ふ點に美しい處もあり楽しい處もある。そう頭から理屈斗りで、子供の教育をしやうと云ふのは、百坪の地所へ百坪の家を建てて残らず教場にしやうと云ふ類だ。

▲一日に三度の飯も、米ばかりでは濟まされないお菜も入れば、漬物も入る。また食後には菓子も良い、果物も妙だ、されば子供の教育も只智慧斗り授けた處で、ロクな人間に成れるものでも無い

▲お伽噺の彼等に於ける、そのお菜で無ければ少くとも食後の菓子である。果物である。………但しその菓子も果物も、共に滋養を旨としたもの只甘い斗りを主として、其實胃腸を害す様なものは

之を避けるに論の無い事だ。

▲かくて善良な菓子、果物ならば、人も食つて決して害の無い斗りか、大いに消化を助けまた、血液を肥やすに相違無い。丁度その通りに、お伽噺の健全なものならば、只に教育に補益する斗りで無く却つて更に之が爲めに、一種の精神教育を施すに至るのだ。

▲此頃學生の墮落問題が起つたりまた煩悶問題が聞える様だ、共に甚だ面白からぬ現象だが僕に云はせると、墮落と云ひ、悶煩と云ひ、共に學生の分を忘れた話、即ち彼等が年齢不相應に身を持たうとするから、遂にかう云ふ事になるのだと思ふ。

▲子供は子供らしくして居れば、何等の危険氣も無い筈ではないか、それを強いて大人ぶらうとする生若い身で人生を解かうとしたり、部屋住の癖

にはや人情を味はうとする、それが抑も間違の初
 まりだ、僕は此點から云つても、子供には子供の
 文學、即ちお伽噺を勧め度いと思ふ、ホイこれは
 飛んだ我田引水、叱られない中にこれで失敬。

先頃の新聞に左の記事があつた。物見高いのも斯ふ
 なるうちと滑稽である。

◎他人の癩が災難の種 茨城縣田中子之吉といふは
 一昨日午後四時頃妻お辰を連れ芝公園に赴き増上寺
 前に差懸るとお辰は急に癩を起したるより種々介抱
 の上來合せたる巡查の手にて醫師の治療を受けたる
 が御苦勞にも人の疝氣を頭痛に病んで癩だくと見
 物して居たる同區西懸寺町白米蘭西山吉太郎と云ふ
 は何者にか九圓九十三錢入の鞆を掏取られ泡喰つて
 居る處へ黒山の人たかり何事ならんと一人の男増上
 寺前にて電車から飛下り人事不省となり漸く蘇生し
 苦い顔して立去りたるが廣い東京とは云へ酔狂な人
 達も有つたもの哉

子供と浮和雷動

芙蓉生

子供と云ふものは氣を付けて見れば見る程面白い
 もの滑稽なものである。此間も近所の長屋に居る
 水屋の台所で三つ許りの女の子が始めは盥の中
 水だらけな雑巾を振舞はしてかとなしく遊んで居
 たが頓ての事に傍の摺鉢の中に入れては出し出し
 ては入れて遊んで居た。此次は何をするかと思つて
 居ると今度は雑巾の代りに自身が摺り鉢の中へと
 入へり込んだ。そしていとぞこの狭い爲めに鉢の
 揺くのが面白くてがた／＼やらかして居たが頓が
 て殊に鉢は一搖ぎすると共に流しの勾配を滑つて
 向ふに走り子供はづんどとうと仰向け様にしりも
 ちついで水だらけのちゃん／＼をながめながら
 ワアと云ふわめき之に次いで母親が叱咤の聲隣

り近處の同じ井戸端議員連の出張となりて稍二三
分間は時ならぬ活劇を演じ出した。始めから遠く
で見て居た我輩は如何にも滑稽なので獨り笑つば
に入つて居た。誠に子供程面白く愉快に人を笑は
せるものはない。

が併し之が少し大きくなり七つ八つから十、十一、
となると傍で見て居る大人の顔色に因つて少しで
も白い齒を見せると圖に乗つて悪ふざけをして仕
方がないものである。然でなくとも友達や何かの
様子で時々存外に一時的にお調子ものとなり、輕
はづみな事を爲ることは子供には多いことであ
る。此様な時には平素してはならぬと堅く禁じて
あつた事などもふわ／＼と然したる悪事でないか
の様に思ふて大それた事を仕出かす事も好くある
ことである子供を教育する人は時々意外な落胆や

失望を來すことのあるのも其原因を尋ねて見れば
子供の此浮薄なる雷同性に基いて居て別段深き悪
意を以つて居ないことが多いものである。心理學
者が子供は社會心に動かされ易いとか子供の思想
は淺薄輕浮なものであるとか云ふのも之を見ると
思ひ當ることである。が之が大人になる迄に如何
して確固な人格を樹立するかと云ふに是は一に教
育の力と云はなければならぬ。故に教育の足らぬ
大人は矢張り子供の様で何時迄も輕浮な分子を以
つて居ることが能くあるものである。昨年の交番
焼打事件に面白半分で騒ぎ回はつた連中にも此類
のものが頗る多い。近頃の新聞に左の様な記事が
あつた。

● 焼打事件公判廷雜觀

▲ 宣告前の被告 被告は皆無罪と云ふことに獨

り極めにして早速一杯祝盃を擧げて何處かへ行かうなど孰れも莞爾さうめき合ひしが裁判長が愈々中村善太郎有期徒刑十二年と讀み始めた刹那被告の顔色は變りたり蒼くなり又泣き出す鶴の一聲然も案外なる申渡の始まりてより一同水を打ちし如く中には縮み上つたものもあり禁錮何年と自分のを聞いて手巾にそつと涙を拭きしもあり▲質問やら答辯やら 今村裁判長は言渡を了りて一同を見渡し「分らぬ者は幾干でも遠慮なく問へば答へる」と云ひしかば大勢はがや／＼し「私のは何です」「私は何年です」「私には執行猶豫がありませうか」など二三十人、中にも米村作之助は聞き直して「汝のは放火犯で本來なら死刑であるのだが酌量して重懲役九年だ」と云はれ眼をささよろ／＼し泣き出しさうに

して席に就き、次に重禁錮九年の石井淺次郎が執行猶豫の有無を尋ねしを裁判長が人違へして「汝は派出所の便所を押し倒して毀したので重禁錮一年だ」と云はれ「いゝへ私に毀したのではありません」と云ひ裁判長は尙悟らず「今辯明しても不可ぬ」と云ひしは滿廷を笑せたり云々我輩は今此處に罰の當否を論ずる必要はないが併し多くの被告が何れも己れの罰の意外に重かりしに一同喫驚して始めて己れの罪の決して輕からざりにしに氣付きたるが如きは如何にも彼等被告の無定見、沒常識には驚かざるを得ずだ、然も其輕擧が何れも他の尻馬に浮和雷動して前後の考もなく些少の分別もなかりし結果だと聞くに及びては益々以て呆さるゝ外はない。是等の事を考へて見ても子供の浮和雷動性を取り除くことが教育上に於

ける一つの任務だと云ふことが出来る勿論座興とか、遊戯とか云ふものが交際的に社會的に多くの人の意見に従ひ衆と共に悦び樂しむと云ふことも必要ではあるが、併し是は事の種類も違ひ考の筋も違ふ。假令心理上然したる違ひはないにしても一方は自他の興味を兼ね備へ一方は他を損害し世を騒がさんとす。善惡の存する所柄焉として三尺の童子にも尙且分ることである。然も此危険なる雷動心が子供に殊に多く現はれるのであるから子供を取り扱ふものは一層の注意を此方面に要すと云はねばならぬ。

◎四つ目の魚 此種中央アメリカ洲カテマラ國に發見せられたり一對の目は水面より上のものを見る事を司り他の一對は水面下の物を見る様になり居りて同時に兩方を(空中と水中と)見る事を得る仕掛なりといふ

新夫婦の理科問答 (中)

本郷生

二十

いつ頃の事であつたかは確かに覚えぬが、何んでも新緑満らんする五月頃でもあつたらう、正木は夕の食卓に向ひ心地良げに且つ食ひ且つ話する内、ふと氣付いたやうな調子で、

「綾さん、今少し脂肪質のものを御馳走して呉れんかね、綾さんの献立は三大滋養素の二つ丈は十分であるが、どーも一つ脂肪に於て缺けるところがあるやうだ」

「左様ですか、それでは明晩御馳走致します、でも貴郎随分脂濃いものが御好きですね」

「婦人の目から見ればそーかも知れん、之に就て面白い話がある。吾輩は嘗て吾が御茶の水の母校に炊事掛であつた時、全じく炊事掛りの一員が

攻學の爲めに御隣りの學校の姫御前達は如何なるものを嗜まるゝかを詮議したことがあつた、其献立を見ればだ、「曰く御汁粉さ、曰く口取さ、曰く弁と推茸との卵閉ぢさ、綾子は吹き出しぬ、吾輩の學校でフライとか豚公とかが甚だ屢御見舞なさるとは段違いであつた、そこで口の悪い或一人が「婦人だからとて脂肪質を好まぬと云ふことはない、それはつまり肥ゆることが嫌であるが爲めさ」と立論して炊事會を賑かしたこともあつた綾さん等も亦其組であつたかも知れない、否あるかも知れない、言ひ終つて「御代りと差し出す手は甚だ勢がよい。綾子」又あんな悪口を……でも随分よく召し上げるじやありませんか。明晩は御樂しみにしていらいつしやい御望のものを差し上げますから」。

「それは有難い……御婦人の悪口を言ひ過ぎたが、一体日本人は餘り脂肪質をヤラヌネ、西洋わたりの例を聞くと余程それは違ふらしい、脂肪が食品として重要視せらるゝことも到底日本の比ではない。あちらの或る衛生書を讀んだ時「バタの價は肺病患者の數に關係がある」と云ふ言葉があつた、肺病の豫病としてはバタの効力を強く言ふた語である」。

「そんなにバタに効能がありますの？ 他の脂肪質ではそれ程ではないでしやうか」

「大問題を持ち掛けなすつたね、一つ説明致しますやう……さ之れで終り、御馳走様、……綾さん片付ることは後にして、吾輩が食後の講談を御聞きなさいな」

日曜と土曜との外は、朝の七時より午後の五時頃

迄毎日單獨で御留守居をして居る綾子は、正木が

食後の四十五分を最も樂しき時間として居るので

あるから、今しも立ち上らんとして手をかけたる

飯櫃を再び差し置いて、二つ返事で坐に復したは無

理のないところ、正木は暫し沈黙して見るともな

しに何處かを見詰て居る、何れより説き初むべき

かを考へて居るのかも知れぬが、多分は少し氣が

重くなつた爲めでもあろう、綾子は食卓の上の物

を少しく片方に取り寄せつ、「全じバタでも随分

價が違いますね」と促すが如き風である。正木は

漸く口を開いた、

「眞正のバタはね牛乳の脂肪に食鹽を混ぜたもの

に外ならぬ。安いバタになると牛乳の脂肪は、ホ

ンのオマジナイ丈で、大部分は牛若くは豚の脂肪

で、之れに「アンナット」Annatto と云ふて植

物の種子より得た着色料と食鹽とを混じたもの

である、如何にして牛乳中の脂肪を分ち取るかと

云ふと、搾り得た乳を十數時間も静かにして置け

ば上に白い皮が出来、其下は淡い米磨ぎ水の如

きものである。して其白い皮と云ふは即ち牛乳中

の脂肪であつて、顕微鏡で見れば分らぬ程の小さ

粒になつて居る、之を適當な器に入れて烈しく搗

き廻して居ると、漸次に少き粒は破れて脂肪は遂

に一塊となつてしまふ、之が即ち食鹽を混ぜざる

前のバタで、脂肪の外に水の幾分と、牛乳中の蛋

白質これがバタを腐敗させて困るのであるが兎に

角その蛋白質の少量とを混じて居る、元來牛乳の

中には目方の上で百分の三とか四とかと云ふ位の

脂肪しかないのであるから、例へば牛乳一升の中

より製し得らるゝバタの量は何程でもない、バタ

が高いと云ふても無理はない。併し……綾さんが
 先刻の間に答へますが……バターでも牛豚肉の脂
 肪でも其他多くの植物性の脂肪でも、其主なる成
 分に至ては大差はないのです、何れも脂肪酸と總
 稱せらるゝ、數種の酸と、グリセリンとの化合物に
 外ならぬのである、只バターには他の脂肪中になき
 脂肪……それは六ヶ敷事を言ひ出して仕方は
 ないが……マーンー言ふて置かう、一寸風變り
 の脂肪の少量……そーさ、バター百分中七乃至八
 分を混じて居る、之れあるが爲めにバターに特殊の
 風味があるのだ、偽バターになると悲いかな此種の
 脂肪に乏い、若くは全く無い、従て風味と云ふも
 のが殆んど無い、尤も滋養の点から云へばバターに
 特有なる此種の脂肪か、取り分けて他の種の脂肪
 に勝ると云ふこともないのであるから、一たび胃

の腑に入れば全じ様な譯、云はゞ之れ舌上三寸を
 通過する時間内の問題さ
 例の如く利發らしい大きな眼をぼち／＼して熱心
 に聞き居りし綾子「そー！そんなら強て高價なバ
 タを求めるとつまらないうですね」と念を入れる。
 「そー、滋養の点からのみ立論すればそんな様な
 ものさ、併し此三寸の舌、中々思ふ通りにならぬ
 奴で、そー理窟通にも行かないさ、又一方から云
 ふて見れば、旨く食すると云ふこと夫れ自身が消
 化を容易にすることにもなるので……今日料理
 法／＼と八ヶ間敷いのも、皆此舌てふ海鼠みたや
 うな奴の暗々裏に刺激するところに出たのさ」
 半ば滑稽を交へたる正木の話に、綾子は吾を忘
 れて、聞き込んで居たが、今や話の稍途切れたる
 を見て「どう致せばニセバターと本當のバターとが區

別がでましましやうとの間を放つた。さすがは竹早町の俊才である、利發なる質問を得て眠氣さす教場に新しき活氣を生ずるは常であるが、動もすれば出任せの風に流るゝ正木の話しは、事の要点を逃さぬ綾子の質問に遇ふて、常に話すに價値ある問題に立ち歸ることを得るのである。

「それは本當にするには頗る六ヶ敷い、有機物の檢定と來ては手數もかゝり話しも面倒になるは常のと併し一寸簡便に爲て見やうとならば「ドンニ」氏の方法によるがよいと思ふ。それには試験管があれば結構であるが、若し無ければ匙でもよい、バタの少し許りを入れて火にかけて見る、若し盛んに泡を立て、沸騰し、そゝして全体が褐色に變つて來るやうならば、それは眞正のバタと見てよ。ニセバタになると泡の出方は少くして、

ばちり／＼と細き青竹でも火にくべた様な音を出して破裂的に沸騰する、そして褐色の沈澱を生じ油の方には殆んど色はつかない、素人が此検査法に依らんとするなら、一度は性の知れた眞正バタと、性の知れた偽バタとに就て比較實驗をして見ることが最も安全である」

△△△△△
 ◎人間の直段 學士ホルト氏の說に據れば労働者の價値は二十五歳を極度とし、學者の價値は四十歳を極度とす猶ほ氏の評價に従へば、十歳の兒童は二千六百一弗餘に値し、十五歳の少年は四千二百六十三弗餘に値すもし労働者ならば二十五歳にして五千四百八十八弗餘の價となるも、それより次第に減少して七十歳には僅かに十七弗餘となり、八十歳に至りては、八百七十二弗餘だけマイナスとなる之に反し若し學者ならば十五歳にして二萬五千八百九十八弗に値し、四十歳に至つては二萬九千三百四十四弗の價を有すと云へり。

齒の衛生

此一篇は醫學者の談話なりとて某新聞に載せられたるものなるが有益なりと認むるが故に茲に轉載することとせり。

齒は消化器の關門に控へて居て之で食物を咀嚼して胃中に送り込むといふ極めて重大なる役目があつて其強弱は直に身体の健康に關係があるから齒の衛生は特に注意を要すべきものだ▲處が日本人は一般に衛生思想に乏しく分けて齒の衛生は皆無と云つてもよい、だから齲齒となつたりなんかして其役目の咀嚼を充分にする事が出來ずに遂に之が原因となつて胃腸の病を惹起し延ひていろいろの病を併發すると云ふ事になるのだ▲又齒の汚れたる程醜い者はない殊に婦人などは齒が汚なかつたら如何に顔が美しくつても一度此汚なき齒を剝出して笑はれたら最後百年の戀も一時に醒め果て

「了う▲西洋人などは齒に對する觀念は非常なもので衛生上からも容貌の修飾上からも大に注意を怠らないさうである、どうか日本人も今少し齒に就て注意を拂つて齲齒などを作らぬ様に清潔にして何時も眞白な美しい齒を保存して置く様にしたいものだ▲そこで血脇齒科醫を訪ふて齒に對する注意を聞いたから衛生家の一顧にもと左に記す事とした

●●●●●
▲晩も磨くべし 齒に對する一般的注意は第一に齒の掃除を怠らぬ事だ、朝起きて洗面前に先づ齒を磨かぬ様な間拔は文明國の人間ではないが夜寝るとき齒の掃除をして寝ると云ふ人は餘り多く見受けれない、哲學者や宗教家の先生方は人は食ふために生きるのではない、生きる爲めに食ふのだなどゝ豪い事を並べられるか知れぬが朝起きてから

夜寝るまで兎に角食ふと云ふ事は事實だ、處が終
 日食つた食物は折角朝磨いて置いた齒に喰ひ付いて
 寢に就く前は不潔極まる齒となつて居る、之を其
 儘にして寝るから一晚口中で温められ朝起る頃
 は口の中で腐敗して居るのだ、朝起きて口の臭い
 のは之れが爲めで凡ての口中の病は之れから起る
 のである、だから朝起きて齒を磨くと共に又夜寢
 るときにも必ず齒の掃除をして寢に就くと云ふ事
 は至極大切の事だ

▲熱い物冷い物 それからの之は誰でも知つて居る
 事だが極めて熱い物や極冷たい物は齒の爲めに毒
 である、之から夏になると氷などを無暗に飲むの
 は甚だよくない之は單に齒のためのみならず胃腸
 のために大毒だから大に注意せねばならぬ

▲酸類の食物 夫れから酸類は極めて齒に毒であ

る然し斷然食はぬ譯には行かぬから若し酸類の食
 物を食つたときは丁寧に口を掃除せねばならぬ

▲齒磨粉 は大に注意せねばならぬ今では大分此
 危険が少なくなつた様だが従前の齒磨粉の中には
 随分如何はしい物が多く房州砂などを入れてあつ
 たもので今日でも齒磨粉の吟味は注意すべき事であ
 る

▲齒は豎に磨け 日本人はブラッシの使用法を誤
 つて居る、ブラッシ其物の作り方が既に日本のは
 誤つて居るから是非もないが齒は元來縦の織組織
 織で日本人のやうに横に磨いては無益で齒と齒と
 の間に挟まつて居る物は少しも取れぬ、だから齒
 を磨くときは縦に磨かねば奇麗にならぬ、夫れか
 ら齒を磨く人は重に外面計りを磨く傾があるが夫
 れ計りでは齒の掃除をしたとは云へぬ齒の裏面も

齒の上部の處もよく磨かねば何の効もないのであるから齒を磨くときは表、裏、上部残る隈なく注意して磨かねばならぬ、又ブラッシの毛の硬軟に就いても大に注意を拂はねばならぬ、硬ければ齒を刷り減らす憂ひがある、と云つてあまり軟らかくては肝心の汚物が取れぬから先づ中庸の物を使用せねばならぬ

◎女學生の富士登山 昨年度は在京女學生の登山者多かりしが是れも一種の流行として漸次地方に及し兵庫縣明石女子師範學校生徒二十七名は藤堂校長に引率せられて此のほど富士登山を終へまた長野縣松本高等女學校生徒二十名、同長野高等女學校生徒五十名も去る二十三日登山し尙ほ外地方女學生の團體にて富士登山を試むるもの昨今最も多しと云ふ

實驗上の育兒

醫學博士 瀨川昌著

乳母の撰定

▲營養上の統計 今度は伯林に於て現在生存する小兒千人に付き生後一ケ年間の養育法即ち母乳で育てるもあれば乳母の乳汁で育てるもある、母乳が不足のため牛乳を間へ交せて育てるもある、左もなくば牛乳一方か、人工の營養物で育てる哺乳兒の千人に對する毎月平均死亡の比例を統計表に作つてお咄し致さう

一千八百八十五年に 於る一ケ月の死亡率
一千八百九十五年に 於る一ケ月の死亡率

母乳	七、六	六、二五
乳母の乳汁	七、四	六、三二
人乳及牛乳	二、三、六	四〇、九六
牛乳	四、五、八	三、八、七四

人工營養物

七四、八

九二、二四

此表に據つても母乳が哺乳兒の營養に尤も適當し
次ぎに乳母の乳汁と云ふやうな次第で、何ういふ
もので養ふのが保育に必要なかを容易く知るこ
とが出来ませう、統計表の比較を見ると一千八百
八十五年と一千八百九十五年とは大分違つて居る
ところがあるが時の場合によつては少し位の相違
を來すのは免れぬことである

▲乳母選定の標準 母乳の全然不足を告ぐる場合
又は母乳を以つて保育することの出來ぬ場合には
乳母を置くことが最も適當です、處で乳母の選定
法に就ての注意ですが選定を醫師に托し、充分に
乳母の身体検査をすれば夫れに越したことはない
が、先づ素人の選定すべき標準を心得置くことは
尤も大切なこと、信じます、扱其の標準とすべき

二十八

は第一に無病健全です乳母として雇ふべき當人が
丈夫でなければならぬ第二に乳汁の分泌が多量で
其上に乳房や乳首の形が完全で哺乳兒の口へ含
むに適當して居るのです、第三が品行方正なるも
の第四が性質の沈鬱性でなき快活の人物、斯うい
ふ資格を備へて居るならば必ず善良の乳母として
採用するに可なるものでありませう

▲乳母の適不適 乳汁の良否は前に述べた通りの
鑑定法で宜しいが尙念の爲めに醫師に検査して貰
ふのも決して悪いことではあるまい、併し此處に
注意いたして置くのは産後一年以上経過した乳母
は哺乳兒のために宜ろしくない、斯ういふものは
選定する資格の消滅するものです、産後四五十日
を経過したもの、中から選定するのが尤も適當な
こと、心得て貰いたい、初産婦でも次産婦でも斯

んな心配は全く無用に屬することであり、總て乳母が哺乳兒に適するか適せざるかを見るには哺乳兒の目を量つて見るのが第一に肝腎です。目方が増加さへすれば適當した乳汁と案心いたすが宜ろしい。

乳母の攝生

▲乳母の授乳注意 乳母が小兒に乳汁を授ける前には未だく注意せねばならぬことがある、其の乳母は出産後幾日位經つたものか、又小兒は生後何ヶ月位過ぎたものか夫れを考へなければなりません、小兒は既に生後二ヶ月も經つて居るに出生産後間もない乳母の乳汁を與へたら必ず小兒の身に障害を與へる詰り出産當時の乳汁は下劑作用を以つて居るから授乳した小兒は下痢する事があるので、然らざれば初生兒時代の兒に出生後五

六十日過ぎた乳母の乳汁を與へる場合もあらうが、斯ういふ時には乳母の乳汁が濃過ぎる故、必ず分量を控へるやうに仕なければならぬ、尤も小兒が初生の時代を越せば差支へないのです、以上の如き授乳の注意は餘り手近な事で却つて氣に留める人の少きは誠に慨はしき次第ではありませんか

▲乳母の生活状態 乳母の攝生は實に小兒保育の爲め大切なことです、併し是れは前に母親の攝生法に於て述べた通り夫れと決して相違いたしませんけれど、是非乳母が特種の攝生法として心懸けねばならぬ事があります、夫は生活状態の變化です、生活の状態が俄に變ると乳汁の分泌に變化を迫ぼすので、例へば田舎では是れ迄労働して居た乳母が、東京の資産家へ頼まれた場合の如き、

生活の状態は俄に變化するではありませんか、粗食を食し、働いて居つたのに、急に食物が改まり旨い滋養物を澤山與へられると乳母は平生食べ慣れた食物よりも美味いので、ツイ食過るやうな事になる、殊には頼んだ家の親は情として乳汁の分泌量が細くならぬ様にと良き上にも尙良き食物を奨るは誰しも同じ心でありませうが、夫は乳母の生活状態に急變を與へて至極宜しくないのです、則ち乳汁は却つて夫れが爲め濃厚になりすぎ分秘量が過多になつて小兒の爲めには飛んだ悪い影響を及ぼすのです、尙其上に此の乳母が運動でも怠つたら益々乳汁を悪くして仕舞ふ、故に今か咄しする様な乳母を頼んだら、矢張り田舎に居た生活状態にして置くほうが、却つて善良なる乳汁を得られるのであります、小兒が可愛い餘りに

乳母に美味い物を與へすぎ、樂にさせて置くことは必ず悪い結果を來すから吳々も斯ういふ事の無い様に御注意を願ひます

▲獸乳 是れ迄お咄し致したので母乳に次いで乳母の乳汁と云ふ事はお判りになつたでせう、併し乳母の乳汁を得られなければ勢ひ獸乳によらなければならぬ、牛乳を代用するのは即ち夫れが爲めであるが、獸乳の中では牛の乳が一番人乳に近いのでせうか次ぎに説明致しませう

牛乳と保育

▲馬乳 獸肉の中で何んの乳汁が一番人乳に近いかと云ふに、分析上の結果として馬乳を推さなければなりません、次ぎが牛乳牛乳に續いて山羊の乳汁であります、シテ見ると人工營養法をもつて保育するには馬乳を採用しなければならぬ譯です

處が馬乳は乳汁の上に於てこそ牛乳に優るが、實際は爾う出来ない、其故に馬乳は一般の保育者に向つて供給する事が出来ない、して見ると夫れは出来ない相談です

▲乳汁成分の説明表 馬乳は一番人乳に近いけれど、沉く一般に得られないから、馬乳に次ぐ處の牛乳を用ゐなければならぬのです、デ人乳と牛乳と又はコンデンスミルク即ち煉乳の如き牛乳製品とは成分の上に於て何の位相違あるものであるうか、此の三種を比較せる重なる成分を左に示します、これは乳百分中に含まれる各成分の比例です篤と御覽下さる様願ひたい

蛋白質	一、〇	三、〇	一〇、〇
脂肪質	四、〇乃至五、〇	三、〇乃至四、〇	一一、〇

糖分質(乳糖)	七、〇	四、〇	蔗糖五二、〇
鹽分質	〇、二	〇、七	一、〇
外に水分	若干	若干	若干

凡て小兒を養育するには人乳が最も夫れに適して居る、又牛を育てるには牛乳が最も適して居る事云迄もなき事である、處で此表に掲げたる通り小兒を保育するには人乳の成分をもつて仕なければ完全に發育は出来ない、ケレども母乳や乳母の乳汁の如き人乳を得られぬ場合には、勢ひ牛乳を以て養育しなければならぬも、爾うするには牛乳を何うして飲ませたら宜いでせう

▲乳汁の重なる成分 扱夫れには牛乳中に含まれる成分の比例を成るべく人乳に近ける方法を取らねばならない、其方法と云ふのは牛乳を表に掲げた人乳と成分の比例上略々同等にするのです、

ソコで一才御注意して置くのは此の成分中で消化に關係のある主なるものは何んであるかといふこととす、其の主成分は則ち蛋白質です牛乳が人乳よりも消化がよくないといふのも必竟この蛋白質が多いからです、それゆゑ牛乳を小兒に飲ませる時は蛋白質を人乳の蛋白質の分量に近づけなければなりません、表を良く御覽なさい、牛乳は蛋白質に於て人乳と比べて三倍濃厚ではありませんか

▲牛乳を人乳に似せる法 夫れ故牛乳を人乳に近づけるには牛乳へ三倍丈の水を注し量を増して稀薄にしなければならぬのです左すれば蛋白質は夫れで人乳の成分と同等になるが、其代り糖分質は稀薄の上にも稀薄になつて仕舞ふ、依つて之れを補ふには少量の砂糖を加へれば之れも人乳に近づける事が出来ます、次に脂肪質ですがこれも非

常に稀薄になります、通常はそのまゝでさしたかえがないのですが西洋では近來これは乳糖を加へて脂肪の量を増すやうにすることもしますが之れは實驗上餘り必要がありませんから之れは先づ稀薄にした儘で宜しい是れで先づ牛乳が人乳に近づきましたので小兒に與へて差支へなき成分になつたのです

牛乳と保育

▲成分中の性質が違ふ 人乳と牛乳とは各成分の分量に於て相違あることは前に述べた通りであります、人乳の方が保育上牛乳より何れ丈尊いかは此の一事をもつてもお解りにならう、處がまだ

夫れ處では無い、成分中の性質も違ふし、大切なる消化の状態も人乳と牛乳とは餘程相違があるのです、成分中の性質が違ふ一例をお咄しすれ

ば同じ鹽分質でも人乳の鹽分は牛乳より鐵分を含まむこと三倍も多いのです斯ういふ鹽梅ですから唯に成分の分量のみ同じなら夫れで可と云ふ譯には參りません

▲牛乳と混合物 尙直接營養の關係は少なくとも人乳と牛乳とは其含有物に大變な違ひのあることも心得て置かなければなりません、人乳を小兒に飲ませる時は乳首から小兒の口へ直接に觸るものだから乳汁へ外物の混合る危険はないでせう、然るに牛乳は爾うでない、搾取つてから種々の器物へ移しかへられる其の間には随つて混合物が澤山ある、微菌や塵芥は其の重なる混合物で斯ういふものが混るのみでも牛乳は遙か人乳に劣るではありませんか

▲牛乳は微菌の良培養基 微菌の中には無数の種

類があるが其の内には病源をなす處の微菌もあれば非病的微菌もあるのです、病源をなす微菌の中でも窒扶斯、赤痢、結核の如きは尤も恐るべき事は誰人も御承知であらうが、斯ういふ病源の微菌は牛乳の營養分をとつて繁殖することは實に夥多しいものであります、丁度牛乳は是等の微菌の良培養基ですから斯る微菌の混合して居る牛乳を飲んだら夫れこそ大變忽ち小兒に傳染する一大不幸を招かなければなりません

▲消化の状態が違ふ 次ぎに消化の状態が異なる點を述べませう、總て人乳でも牛乳でも胃腸へ嚥下すると先づ一度は凝結するので爾うして後に消化することになる、處で人乳は其の凝結の仕方が細くなるが牛乳は趣きが違つて大きく凝結する夫れ故双方消化の良否を比較して見たら細かく凝

結つた人乳は消化し易いけれども大凝結になつた牛乳は人乳と比較して消化が悪いです、シテ見ると營養の價値に於て牛乳は人乳の上に立つことは無論出來ないのであります

▲一種固有の神秘力 まだく夫ればかりではない化學の力を以て精細に確め得るとの出來ない一種の神秘力がある、人乳には人乳固有の神秘力があつて乳汁の成分や性質以外に小兒を保育する微妙の力を有つて居る、牛乳も其通り牛を育てる上には一種固有の神秘力があるので、人には人乳が適合するし牛には牛乳が適合するのである、斯る固有の神秘力があるにも係らず、牛乳を人乳に代用するは保育上不適當なるは云ふ迄も無きことでありませう

▲動物に試験せる實例 嘗て牛乳を分拆し、其

各成分で化學上牛乳と同一のものを作り或動物(モルモット)に試験したことがある、モルモットの子は普通の牛乳でよく育つのであるが、此の化學混合物の牛乳を與へて完全に發育したかと云ふに大いに反對の結果を顯はし、日に増し衰弱の度を高め、遂には斃るゝに至つたやうな次第であります、之れを見ても人乳でも牛乳でも單純なる化學混合物ではない、即ち死物ではない、活物であるので其の内に一種の神秘力を有して居ることがお解りになつたでありませう、夫に付けても牛乳に就て素人や醫師の誤解されてる説があります

(つゞく)

◎海中の黒猫島 は南米エクスアドアル國の海岸に近キトヤタム島にして猫の住する事頗る多く其毛色は悉く黒色なり此の猫は島上熔岩石の割目の中に住み鼠を取らず専ら魚類及蟹類を食とするなりと



短歌募集

△課題 隨意

△切 毎月末日

△賞品 三光に粗景を呈す

△選評 眞宮起雲

△投稿 用紙隨意清書して左記の處へ送らる可し

但添削返稿を望まらるゝ方は往復葉書又は切

手封入の事

「伊勢國白子局稻生みどり會」



短歌 起 雲 選

○ 松田小波
筆とりて入りし若葉の森清う泉めぐらば朝露のちる
肌白き人の湯浴を窺ひて待べるに似たり夕顔の花

○ 中川龍
朝鳥の清々しくも啼く窓によべ見し夢を操り返す哉
瑠璃なせる海原くれて歸る帆に思ひ出多き夏休み哉

○ 鈴村仙子
忍び音に泣きし夕べを雲亂れ雨よぶ如き鳥の叫びや
人は愛に光りを添へて樂しうも此世終へなば願ひや足らむ

○ 玉尾紫水
懐しき聲の限りを道ときて瘦せませし君を思ふ夕べや
夏朝を野川に立ちて薄れ行く星の影見る我瘦せにけり

○ 青山美香
紫陽花の影泉水に彩雲とすれくうつる夏夕べ哉

○ 廣瀬涼風
山つ姫の葉守の神と泣む御酒が木々紺青に酔ひ流す雨

○ 谷桶水
藤より洩るゝともしの主は誰ぞよく聞き馴れし朗吟の聲
○ 大西益子
訪へば秋の戸固く閉されてあるじ獨の窗に興する

○ 平 岩 學 洋
世を佗びて山に骸を潜めつゝ歌の世夢む人は瘦せたり

○ 中 西 斐 蔭
廻り行く雲の形を眺めてはうつし此世を泣く夕べかな

○ 尾 上 政 子
朝窓に近うも匂ふ白蓮の露美しくしき鐘の響や

○ 眞 未
夏瀆の夕べ眞砂路さまよへば波涼しうも月さし昇る

○ 田 邊 孝
夕雲や初良かざる野の踏と花なき里を寒う流るゝ
菩提樹に斧をかざせば山鳥のぼろく啼きぬ朝明の森

○ 林 静 子
物思ひ窓の月に寄る夏夕べ音なくちりぬ紅のけし
瘦せし頬に笑みをつくりて慰めん母君もなし啼く子規

○ 伊 藤 天 郎
暗の夜を神が呪ひの聲のごと身に泌み渡る水のせいらぎ
讀みさし、伊勢を枕に畫ぬせば又好き夢の胸にも入らなむ

○ 順 禮 子
順禮に身の上話しきく夜なり怪しう更けぬ山子規
花ならば白あざみこそよからむと夕野逍遙ふ我頼は瘦せぬ

○ 中 村 鶴 聲
塵の世をかこつ子茲に來たらすや胸さながらに清し白瀧

うすもの、秋にふれてそと搖るゝ白百合くしき匂ひにこめたる
* * * * *
うらぶれて小島に舟す繪師と我が浮世語りに日はくれにけり
灯とりて大星小星したゝかに酔ひもしぬらむ七夕の宵
* * * * *

無聊吟社句集

水底の苔まで見ゆる清水かな 天 外
枝蛙夕吹く風の雨近き 同
松風の余りをそよぐ青田かな 文 久
藻の花や明日咲く花は水の底 同
今人の呑だ跡あり昔清水 同
飛で来て袖に隠るゝ壁かな 同
山伏の山を下るや蚊喰鳥 同
花桐や茶畑つゞき寺の裏 同
活花は遠州流や夏座敷 同
蚤も居ぬ絹の蒲團や京旅宿 同
掛香や老いたる妻の憂き思ひ 同
よき水を得て歸りけり百合の花 同
朝風や君を見送る夏衣 同
小さき手に持ちきれぬ程の覆盆子かな 同
兩岸の芽の茂りや行々子 同
醉 月

晒井の人ならびたる夕餉かな
美しき籠に入れたる林檎かな
虫干や孫に物言ふ鑑置
炎天や寺に葬儀の人だまり
行水の垣のぞきけり白き肌
裏戸から人の入り来る蚊遣かな
青芒は馬に喰はれぬ百合の花
日盛や藍を干したる門庭
石段や花袖こぼるゝ朝の雨
有明の草に夕沙やねらひがり
鯛や釣瓶の音を前後して
巖頭に狂女の立てり夏の海
京人形子の抱たまゝ晝寐かな
冷夢に胡塵かへたる團扇かな
寄りかゝる二階柱や絹團扇
煽り立つ搦風呂の下や漣團扇
爪切て庭に捨てたる團扇かな
腎べたを裸のたゝく團扇かな
水草に追はれてすがる螢かな
雲の峯崩れて雨となる夜かな
まだ雪の重みは知らず今年竹
飴賣や團扇投出す男の子
襪に脇差さして漣團扇

同 樂 水
同 同
同 雪 舟
同 閑 人
同 さだ 女
同 白 醉 樓
同 同
同 紫 耶
同 同
同 同
同 同
同 曉 霞
同 同
同 奇 零

口多き大工の妻や漣團扇 同
道出て、團扇を探る夜頃かな 同
噓して顔かくしけり絹うちば 同

黒子と笑顔

左の一篇は時事新報附録文藝週報に松旭齋天勝の談話なりとして記載されたるものなり。西洋の藝人どもが如何に其化粧法に巧みなるかを知ることを得可く且面白き節もあれば茲に轉載すること、せり。

私は十二歳の時から舞臺へ出まして手品は遣つて居りましたが、始めの内は少しも極りの悪いと云ふ事は御座いませんでした。十五六になつてからは、少しは舞臺で口上を云ひます様になつて、其口上を云ふのが極りが悪う御座いました、夫れから始めて外國へ參つた時には、種々失錯が御座いましたが第一に白粉の塗り方が悪いと云つて笑はれたので、御座いますと申すのは、私は日本流に白粉をコテ〜に塗つて、口へ紅を濃くさして舞臺へ出ましますのです。すると、日本の婦人はお化粧の様な顔だとか、死んだ人の様だと、云はれました、それで、一座を仕て居る胡蝶の舞ひを遣る西洋婦人に、化粧を仕て貰ひまして、

夫れから段々に覺えたので御座います、彼地の白粉は、日本の白粉の様に濃くは御座いませんで、薄いのから段々にあるので其中には男の附ける極く薄いのなどもあります、其中の程の宜いのを塗つて、次第に濃いのを塗る様になつて居ります夫れから絲で出來たブラシ(日本の舞ひ刷毛)の様な物で群のない様に仕て置きました、今度は桃色の濃い油を眼の下から頬へ掛けて塗りますので、白い處は僅か鼻と額だけに致します。夫れから藍色のグリスペンと云ふ油を眼縁へ塗りまして、長く眼尻を下げる様に致します。次に黒いチツクをマツチの先きへ附けて、上瞼の毛は上へ上がる様に塗り、又下瞼の松毛は下へ向く様に塗ります。前に藍色のグリスペンを塗つた後へ、松毛を上下に向ますから、自然と眼がパツチリとして涼しく見える様になります。夫れから眉毛墨は、茶色と黒色が御座います。是れは何らでも自分の勝手に御座いますが、私は重に黒い方を用ひて居りました。夫れから口紅のグリスペンは少し厚手に入れますので、是れは口の端の兩方へ濃く入れますと、口が締つて見えます、夫れから頬紅を鼻の穴と耳の穴へ塗るので、是れで初化粧は一通で御座いますが、尙懸々愛嬌墨子を附けるので御座います、私は眉毛の傍へ小さいのを一つ描いて、額の傍へ少し大きいのを描きます、是れは自分顔に釣合ふ様に勝手に入れるので御座います彼地の藝人は藝を仕て居ります間も、始終愛嬌と云ふ事に重きを置いて、笑ひを洩して居りますが、日本の藝人は一生懸命になり過ぎて、つひ強い顔をする様になり

ますので彼地へ行つてから夫れでは不可／＼と注意されましたが、第一に出來なかつたのは、引込みの笑ひで御座います。何うも兩手を口の處へ遣つて、夫れを開いた形の挨拶が出來なかつたので、始めは片手で遣る事に致しましたが、手の方は出來ても、身體の形が附かなくなりまして、又身體の事斗りを考へて居ると顔の方が強くなりますので、三拍子揃はせるのは六ヶ敷かつたので御座います、其中段々に形が附いて來ましたが彼地では氣に入ると、二度も三度も手を叩かれるので、其度に出て挨拶を致しますが、始めは漸々遣つて居るのを、夫れを二度も三度も引張り出されるには困りました。夫れから花束を貰つた時に何う受けて宜いのか、香ひを嗅ぐ事も何も知らずに、唯だ戴いて遣入つて仕舞ひましたが、其後大花籠を貰つた時には、是れは持つて遣入られないので、致し方なく其儘置いて遣入りました。その置いて遣入の方が宜かつたのだソツで御座います。



アメリカの長松

朝 露 生

番頭は獨逸人、殆んど非常識なる代もの、御よし
 なした方は御爲めでせうと、すゝめた人もありま
 したが、意久地なきわが心を鍛練するには、そん
 なところこそ御あつらひ向きですと、飛びこんだ
 のは王府の衣裳會社、この度は半日働きの丁稚
 と身を現じたのでございませう。
 風俗習慣を異にして居るこの國にさすらひて、わ
 が國ぶりの眞情を思ふまゝ、味ひつくざんとは、
 鈍子時代の迷見でございませう。もとより人情の
 眞清水は東西共通のもの、行路難の地下、堀るこ
 と幾千百尺にして、清冽玉の如きものを掬し得
 る道理はありませぬ。されど鶴嘴も用意せず、シ
 ョアベルも手にせずして、爪を傷け手をけがして

煩え苦しむは愚の極であると思ひます。
 利益交換の外、何等優婉の道念も持たぬもの多
 きこと、まことに憐れむべき國ぶりでございませ
 が、絶東の一寒僧、いり豆に花咲かしむる妙術も
 あらなくに、俳々憤々として日を送るとも何をか
 せんと、炎ゆるが如き度他の心をしばし押へてこ
 の精神的貧民と共に同事行を營んで居るのでござ
 います。吾は五時間筋骨を勞し、彼は一弗にみた
 ぬ金を拂ひ、こゝに相互の満足が現成したばか
 り、その外何等人情のくだくしき糸、吾等の間
 をつなぐものなく吾は彼の名を知らず、彼またい
 かにして吾が名をしらん。彼は單にわが財囊の一
 つにして、一週間に五弗を産みいだす代ものなる
 のみ。吾また彼のためには器械の一つにして、よ
 く動きよく廻り、唯彼れ自身のために事を辨じ得

るを以て足れりとするのでございませぬ。氣に入らぬ時の叱咤も怒罵も、何等の怨みあるに
 わらず、彼はそのなさんとすることをなすに過ぎ
 ませぬ。吾またいつまでも彼がために制肘せらる
 へと云ふわけにわらず、わが満足に一點欠けても
 グードバイの置土産をすること憚らぬのでござ
 いませぬ。番頭忠兵衛と丁稚長松との日本流の主従
 説から考へると、いかにも亂暴の云ひぐさであり
 ますがこの間に自由自尊の嚴として犯すべからざ
 るものあり、アメリカとてまんざらすてた國では
 ありませぬ。
 よしや劔突目に幾度と吾を襲ふともまさかわが耳
 に穴もあくまじ、さだめの仕事をさだめの時間中
 にかたの如くなさしめんとての責太鼓、これも彼
 が義務と思へば劣等なるその英語も興味ある音楽

でございませぬ。意味もなき罵倒には、吾も悪罵の舌
 鋒すどく、彼の黙を見るまでは主張をかゆるに
 及ばず、思へば田舎寺の青道心が鐘をつくやうな
 もの、強ければ響も大きく弱ければ蚊の、うなるが
 如きのみ、鐘と撞手との間にこの外むづかしきイ
 サクサがないのです。考へて見るとこれもまた一
 種の哲學的境界です。不平も煩悶も漏らすべき余
 地はありませぬ。自ら責めて人に關せず、なすべ
 きことをなしてわが能事する。妄想を盡いて、他
 に註文よるすりも、自らはげましてその日その日
 の荷づくりする、是にいたりては順境も逆境も
 あつたものでない、古哲の所謂、閑事の心頭にか
 へるなくんば即ちこれ人間の好時節、まことに春
 風は徒らに吹かずとうちをむ時もございませぬ。ア
 メリカの旅心や、面白くなりました。

午後は傳道と教育事業のため足りぬ智恵分別をし
 ぼつていつの夜も十二時過にギアスを消すのです
 もの、とても早くは起きられませぬ。窓の下ゆく
 瀛車きんしゃのといろきにゆり覺さまされて身仕度みじたくもいそが
 しく髪かみはオー克蘭ド風の七分三分にすゑ、カラ
 ーは日ひごととに白妙しらたへの雪冷ゆきひやかならず、靴くつをみがき上
 衣トの塵ちりをブラツシユして居るうちに、厨下ナツサンに鳴る
 は朝飯あさはんの鐘かね、早起はやおきせる二三の青年せいねんだちと食卓しょくたくにつ
 き、黙禱もくとう黙喫もくせつの日本流にほんりゅう、七時十五分前に教會けいこうをで
 るのでございませぬ。十五分にしてわが働はたらくべき店ストア
 にゆくことが出来ます。吾が眼めにふるゝものに他
 日濟度じつさいどの手てを下くださん、わがふむ土地ちちに他日たじつ嚴げんかな
 る法城はふじやうをたてんと、五色しきの人種じんしゆ絡繹らくらくたる街まちを、聖
 經きやうを黙誦もくじゆして、歩みあゆみゆくころ、道同みちどうじからぬも
 のにかたり得えるところでありませぬ。

この國にてはさまで大なる店ストアならねど、仏寺てらの外
 に大なるものを見たることなき吾身わがみには、三千の
 僧衆そうじゆ大齋會だいさいかいをするやうな大伽藍おほがらん、五時間ごじかんの住持ぢゆうぢ
 なりてわがものゝやうに掃除そうじをするのでございま
 す。番頭ばんすは帳場オヘンの中なかにて升ますにてはかるほどの金貨きんわ
 銀貨ぎんわを數かずへるにいそがしく、電燈でんとうひとつ徹夜てつやの面
 影かげをとめて、わが戰友せんいうなる黒童くろどうの外ほか、店員てんいん未だ
 出勤しゆつじんして居りませぬ。商戰しやうせんの名殘なごりりは帳場オヘンの紙屑かみくづ
 にあとをとめて、さきすてたる手紙てがみの袋ふくろのみに
 ても大なる籠かごに一つばいあるのです。大急おほいそぎにて
 そこをはき淨きよめ、直すくに樓上ろうじやうの更衣室こういしつを攻せめること
 にいたします。この室しつは三つ、椅子いすあり小机こつくえあり
 身みのたけほどの鏡かがみあり、こは顧客こくきやくの更衣こういをなし
 または寸法すんぽうをとるところ、この國くにの女服おんなふくは、東洋とうやう
 流りゅうの方形ほうけいなるつぎめにあらで、復雜ふくざつなる曲線まげせんの配

合がでありませすから、寸法すんぽうをとるに長時間ながじかんを要ようする
のでございます。

黒童くろどうは工場こうじょうと男子服店だんしふくせとの掃除役そうじやく、婦人服専門ふじんふくせんもんの
店故みせゆゑ、彼の働はたらくべき店みせは後方こうほうの一小部せうぶ、一時間じかんに
みたぬうちに吾事わがこと了おひれりとなつぶやきて、彼かれは自轉じてん
車くるまとばしそと使つかひ出でるのでございます。

吾われは室むろごととに手てばやく電燈でんとうを点てんじて、ピンや紙屑かみくづ
などを掃はきとり、階段かいだんをくだりて春はるの廣野ひろののやう
な青アライシカレットの塵ちりをはらひ、天幕部テントぶら落おつたるやうに点てん在ざい
せる衣架いかりかの下したまでも、のこる限くまなく拂はらひ去さりて、
入口いりぐちより帳場サシまで花甌くわおうをしきつめ、入口いりぐちの床ひかを洗あら

ひたるのち鏡かがみの幾いく十じゅうかをみかくのでございます。
あるは三稜柱りやうちゆうにつくりあげたる、ある開ひらき戸どの三
枚合まいあせ、あるは額面式がくめんしきに鈎かぎりさげたる、七人將門にんさまかど
のやうに長松ちやうまつのすがた反寫はんやしたるに驚おどろくこともわ

り、まれに見みるわがうしろすがたに可笑おかしくなる
こともあり、廣ひろきが上うへにも廣ひろく見みせんとての配合はいがふ
中なか々に意匠いしやうをこらして居をります。とかくするうち
に右みぎからまた左ひだりから磨みがける鏡かがみにうつり來きたるは店員てんいん
の婦人レディーたち、美人びじんてんじやう天上てんじやうより下くだるにあらで、紅紫こうしの
裳鏡まきやう上うへにひらめくもまた趣おもむきありとでも云いひま
せうか。顧客こきゃくの眼めを引ひくやうに着きがざりて、リボ
ンの色いろも、留針ピンの寶石ほうせきも、金きんの腕環うでわも胸むねの金時計きんどけい
もみなこれ廣告くわうこくの一つとして、新風潮しんふうちゆうの色彩しよくさいと新しん
流行りゆうかうのスタイルとをわつめ盡つくくしてゐます。
英語えいごに不調法ふてうぽうなる番頭ばんとうに代かりて矯きやう舌ぜつ々たんく客きやくに接せつ
するは二人ふたりのヤンキーレデー、碧あざき眼めの底そこにはX
光線くわうせんありて客きやくの腸はわたの奥おくを見透みとふし、黄金色こがねいろの髪かみ
の毛けには人ひとをつなぐの魔力まじやくやどりて、一たび入いり
來きたる客きやくは買かはずんば歸かへることを得えず、いとまわら

ば英京佛京の雑誌を繙きて、六韜三略の工夫怠らず、まことに見るからに勇ましく武者ぶりでござひます。

帳場に居るは書記二人、一人は簿記を掌り一人はタイプライターにてまたくうちに數十通の手紙を認むるのであります。一人は金庫と計算器の係り、幾萬弗の全權はこの織手に握つて居るとの意氣、この人の電話口に立つときは、そのうるはしき聲音店中にひびきわたるのでございます。

樓上には幾十臺のミシンありて笑ひさいめく聲々車の音にも冥没せられず、さくからにたのしげにて、利を争ふのちまたとは思はれませぬ。

店の飾りつけ一と通りすまして、長城の廊下のやうな柵の内面と上部とを拭ひホット一と息するころは着たやほしやのレデーだち、はやひしひし

とつめかけてゐます。そのあとのわが役は陳列場の窓を拭く位のもの、ウオッチはまだ十時半、梯子のぼりてゆるくと拭きはじめます。高さ二間巾一間ほどの玻璃の一枚もの、三十枚あるのでは蠅のとまりしあとや塵のけがせし位はわけもなく落ちますが、いつどうしてついたのか、ペンキの點々こいつ中々むつかしい、ナイフをとり出して一々搔きとらねばなりません。

この國のレデーだち、化粧をするに各種のナイフを用ゐ、顔の班點をけづり去るやうですが、面皮いかに厚しと雖ハンケチにて掩ふほどの容積、それに美しく見られたやの心手下となりてせきたてること故、またくうちにしわがりがりませうが、グラスの御化粧はどうしても二時間近くを費すことになつてゐます、梯の上より見下ろせばあるは良

人の腕にすがり、買ふてはしやの媚を呈して来る
 もあり、細腰ひらりと肥馬より下ろして銀鞭を手
 にせるまゝ入り来るあり自働車にて来るもの、馬
 車にて来るもの、短裳かひくしくかけこむ女學
 生、幼兒を車にのせて来るマダム、かをらぬ花は
 帽子の上に色あざやかに、色なき花の香衣袖をも
 れて百千種の名香一時にくゆらすが如くでありま
 す。陳列場には十數人の彫像立ちて、これ見よが
 しの晴着をまとひ、はゞにベンクの色あかく、眉
 に青春の想あらはに、皓齒嫣然としてうちをむも
 あり、嬌艶うちむきて恥じらふもあり帽子より手
 袋のはてにいたるまで、凡そその日のあらゆるも
 のうち第一等のもものは悉くかの彫像にまとはす
 のです。腹はへッてもひもじくないわけならば、
 一つ彫像となりて大陸の衣裳の粹を着て見るも面

白ひでせう。
 かつて幼き時羅漢堂に徹夜して、燈下修禪をなし
 たことがありましたが、何の宿縁か、落魄四千里
 こゝに女菩薩に奉侍するやうになりしことよと、
 自ら笑ひたる時もございます。東海姫氏國の姫御
 前とても、わが理想の美を眉目のうちに現はした
 るは少なさを、ましてや表情の七變化、手をひる
 がへさぬうちに、嫉妬偏執、瞋恚慳貪まばゆきは
 どの活動寫真いまはしくて、白哲の美人には、一
 顧の勞もとりにたくないと思ふて居るものでありま
 すがその日その日に身の皮を改められてうれしさ
 うな顔もせず、十字街頭にさらされて、紅閨のう
 ちにやすらふが如く、をめるはつねに笑み黙せる
 はつねに花唇を閉ぢ居ること愛すべき女性のみで
 ございます。

吾は一々かれ等に名をつけて、勞働の友として居るのでございます、されどわが理想の戀人たる觀音薩埵の如き、端嚴微妙の面影はこの國人をモデルとしてつくりし彫像に、とてももとめられませぬ。三十三に身を現じてあらゆる苦厄をわが苦厄とし、無畏施のまなじり千斛の涙をたゞへ、梵音の御口もとに百千の經卷を藏する底の美人、天上天下二つとはありませぬ。さもあらばあれこの沈黙の彫美人、胸に煩惱の血潮も通はず、求むるところなくしてすがたを現じ居ること、一種羅漢悟の對象として嘉みすべきところないでもありませぬ、合天井に輝くは幾百の電燈、夜半にはいと冷靜の光を放つことかと、眷はしきふしぶしないわけでもありません。窓を拭ひ了りて屋内の電燈ホヤ、などみがき居るうちに正午十二時となるの

でございます。ミシンの秋の音もやみ、タイプライターの音も計算器の音も凡そ店の中のもの音一時にやみて、わが仕事もそのまゝ、終りとなるのでございます。五時間の力働、滞りなくませ、綠蔭の涼風に汗を乾かし、渴ける喉をうるはさんと、いつも立ちよるは糖果舗、ソーダアイスクリームの一碗に、アメリカの苦中の甘露づくくと味ひて、さてこれよりは午後の舞臺、吾はた何に身を現じて、わが願輪を轉じやうかと、人浪の中を押しわけてわがホームたる教會にかへつてくるのでございます。

(完)

◎二年間の休暇　米國ミヅリー州フォレストシチーにあるパーリントン鐵道會社の役員ホベイといふ人は一日も缺勤なく四十年間勤めたる爲め此程二ヶ年間の休暇を得たりといふ此間給料は全額を受く善なりといふ

淀橋浄水工場を見る

一 幹 事

首かしげられし朝來の天氣にもか、はらず豫告の如く北豊多摩郡角筈村淀橋浄水所門内に集はれし會員六拾余名、廣く静かにして清らかなる空氣の中に暫時休息後、芝生の小山に登り、一目の下に都下百五拾万の人口に充分供給し得べき浄水場を眺め懇切なる説明をうけ、其水邊を縦覽し、大に益する處ありて後、此處を辭し、十二社に到り、池邊に慰ひ、互に談笑し、あるはダンスなどして樂しく清さまとのめのとけたるは午後五時半すぎなりき。

浄水場の有様

1、水源 球摩川

2、方法 次の三種の池によりて水を濾過するな

り

イ、沈澄池 ロ、濾過池 ハ、浄水池

イ、沈澄池 (大サ三百立方尺) 三ヶ所

玉川ヨリ全所ニ導キタル水路ヨリ、三ヶノ大

池ニ引キ入レタル水ガ、緩ヤカニ流ル、間ニ

泥砂其他ノ固形分ヲ沈マセテ、清澄ナラシム

ル處

ロ、濾過池 六ヶ所

(イ)ニ於テ澄ミタル水ヲ濾過シ、飲料ニ適ス

ルモノタラシムル池ニシテ、其構造ノ大要ハ

通常ノ家ニ於テ使用セラレシ濾過器ヲ大ナル

設計ニヨラシメタルニ等シク、其底ヲ次ノ如

ク上ヨリ順ニ敷キツメタルモノニシテ、即チ

砂 二尺三寸

小砂利 三寸

小石 五寸 直徑三分一八分

全 全 全 一寸一 二寸

全 全 二寸 三寸

ノ如キ厚サニ煉瓦「コンクリート」ニテ出来タ
 ル池ノ底ヲ土台ニシテ敷キツメ、其上ニ水ヲ
 (イ)ヨリ引キ入レテ、深サ二尺八寸ニ達スル
 ヲ度トシ、始終此深サヲ變ゼシメズ、止ム所
 ナク瀘過シ、其砂ノ間ヨリ小石ノ間ヲ通過ス
 ル間ニ、種々ノ細菌其他ノモノヲ殘シ、充分
 清潔ニナリタルモノ、之レヨリ各地各家ニ使
 用スル鐵管ニ送ラル、ナリト云フ猶ホ他ニ淨
 水池ニ送ラル、モノモアリ (二尺八寸ノ深サヲ度
 常一メートル以上ニ達スルトキ又淺過ケル所ニハ水
 ノ自然壓力ニ影響シテ濾過量ニ影響スレバナリ)
 ハ、淨水池
 (ロ)ニ於テ瀘過サレ飲料ニ適スル水トナリシ

モノヲ各所ニ送り出スモ其一日ノ中ニ於テ朝
 夕ハ供水量非常ニ増加シ特ニ夏日ニ於テ此
 ノ事多シト其際ニ補フガ爲メ。又夜間水ノ使
 用少ナキ場合溢ル、斗リニナリシモノヲ貯ヘ
 置キ非常ノ際ニ供フルガ爲メノ二用ヲナス處
 ニシテ貯水池トモ云フベキ處ナルナリ」其構
 造ハ水ノ停滯ナカラシメ以テ腐敗ヲ防ギ、其
 水ノ動靜ヲ見能フ様ニ成レリ、即チ池ヲ左右
 ニ分チ煉瓦ヲ以テ壁ヲ造リ、中央ニ人道ヲ造
 リ、上ニハ土ヲオキテ芝生トナシ、外面ヨリ
 ハ一般ノ芝生ノ如クニナシ、其處々ニ通氣孔
 ヲ設ケテ、土管ヲ立テ上ニ蓋ヲナシ新鮮ノ空
 氣ノ流通ニ備ヘ、人道ノ兩側ニハ硝子ヲ所々
 ニ符メ其水ノ流ル、狀ヲ見ルヤウニナサレア
 リト。此淨水池ハ三ヶ所アリ 即一ハ本郷元

町他ノ一ハ芝榮町ニアリ何レモ同ジ形式ナ
リト云フ

3、

其他の建物

a、壓力唧筒ヲ備ヘラレタル機關室此ノ室ニ水
ヲ送りテ蒸汽壓ヲ加ヘ水ノ自然力ナル二十尺
ヨリ以上ノ高サ、海拔百三十二尺ノ處ニ迄噴
出セシメ得ルヤウニシ各消火栓ニ導クタメノ
設備建物

b、大雨後水源ノ濁リシ場合之レヲ水路ノ上方
ニ於テ澄マシムル爲メニ七萬分一ニウスメラ

斯ク以上ノ如クにして瀘過されたる淨水中に
ハ一點の塵埃を止めざるのみならず細菌さへ
初め三分三厘(一センチメートル立方)立方に
五千位ありしものが五十以下に減少し通常の
井水よりも衛生上安心なるものとなるといふ

レタル明礬ヲ造リ之レヲ滴下シ得ルガ爲ニ設
ケラレタル處ニシテ管ニ孔ヲ明ケラレタル處
ヨリ液ヲ水中ニ滴下スルナリ
c、砂洗場此處ニハ一ツノ砂ヲ洗滌スル機械ヲ
備ヘラレ瀘池ノ砂ノ上部不淨部ヲカキ取り來
リテ之レヲ洗フ處ニシテ五十日目位ニハ必ス
之レヲ行フト云フ

集まり會せられし會員は其給水の狀の大にして且
つ至れり盡せる設備を見て此設計により都下百五
十萬の人民が如何斗り勞とはぶかれ又衛生上に益
を興へられのゝあるかを想はしめられしなるべし
折から雨なくして其沈澄池の水の斜に一間余り濁
き居たるを見ては雨の必要直接に農夫のみには非
ずとおもはれてはまたなか／＼に日常使用の上に
感謝の念と各家夏冬共によく「ネチ」に注意して滴

て、
々の音を餘外にきかれざるべし。願はくは一覽ありて其状を委しく知り想外の感を得給はんことを附記す

家庭のため

子女を學校幼稚園に托せる方々へ

平山ひさ

人の親の心は闇にあらねども子を思ふ道に迷ふとか申しますが誠に子を思ふ親心ははかり知られぬほどありがたいものでございます。その迷ふまでの至情を以て思つて下さる親の恩子たるものはどうして之に報じてよいか分らぬ位でございますが今親子の間の情の方面をしばらく措きまして、父母は其子を教育する教育者でございますから「教

育者は被教育者をよく知らなければならぬ」といふ方から考へますと親は常に子を觀察し子の眞價を知る上に付て迷わぬ様にしなければなりません。子を見る事親に若かずといふ詞通にいつて居れば結構な事でございますが、多くの中にはやゝもすれば眞面目からして其子を良く見過ぎ又は少くとも長處はよく知つて居りながら其欠点はあまり氣がつかずに過すといふやうな傾向、申さば其子の眞價を知らずにそれ以上に認めて居るといふ事がありはいたしますまいか。固より人間は情の動物で殊に親子といふ深い關係のある間柄ではどんな親がどんな子を見るにも多少の慾目は免かれられませぬが、できるだけ其眞價を知つて教育の方針なり方法を定めて行く事が必要でありませう。されば親たるものはつとめて冷靜なる頭腦

を以て其子の性行を觀察し其眞價を知らなければ
 なりませぬ。それには自宅で我子ばかりを見て居
 るといふ事を避けて時に他へ出で、他の兒を見る
 とか遊びに來た他の兒と我子とを並べて教育的に
 比較して觀察するといふ事が必要でございます。
 學校とか幼稚園では幼兒が入つて參りますと間も
 なく其長處や欠點が受持教師の目によく映します
 が、之はかういふ場處では子供が家庭に居るより
 も獨立的に生活しなければなりませんから其性格
 がよく現はれるといふ事もございませうが又いか
 にも十人十色に良い子も悪い子も普通のもといふ
 風にちがつたのがいろく並んで居りますから一
 人々々にはなして見るよりは種々の点が見え易い
 といふ事も確に一の原因でございませう。甲の反
 物と乙の反物が殆ど同じ様によく似た色をして居

つて別々に見れば全く同じ色と思つても二ツ合せ
 て見るとなるほど少しちがふといふ事が分るのと
 同じ事で我子を他の兒と比べるといふ事は極必要
 でございます。幼稚園などで之は良くないかやう
 かやうに悪いといふ風に觀察した子供と親御を呼
 んで注意したりたづねたりいたしますと親御の方
 ではどうしてそこまでには思つて居なかつたとい
 ふ事によく出あひますので、つまりかういふ親達
 は其子を眞價以上に認めて居られるのでございま
 す。之は親の側からはよほどよく考へなければな
 らぬ人間の自然の弱點かと存じます。之を救ふに
 は我子を托して居る幼稚園などになるべく度度行
 つて他家の兒の有様又は他兒と遊ぶ我子の有様な
 どをよく見るといふ事が必要でございます。
 右は親が子を正しく觀察し得ぬ傾を有つて居る

といふ事でございますが、親は又其子なるべく他人によく見せたいよく見て貰いたいといふ情有つて居ります。それは尤な事ではございますが實は家庭に於ける我子の長處も欠点も皆打ち明けられた方が得策であります。然るに其打ち明ければならぬ場合又は打ち明けて置かねばならぬ人、たとへば學校幼稚園での受持教師に對してまでもなるべく悪い處は語らずにすませて置くといふ風な事が往々ありがちの様に思はれます。此方(教師)では知れ切つて居る欠点ある或子供の平生に付て親御にたづねると、あれも自宅ではよくいふ事をさしますとか何とか長處ばかりを擧げられ意外の感に打たれ、さても親心はかうした者かと今更の様に感じ、進んで此方ではこれ〜故かう〜いふ風に注意して居ります、どうか御宅で

もそういふ風に願ひたいなど、言ふとまんざら欠点を認めて居らぬのではなかつたといふ様な事もよくございます。或は或子供に急にはじまつた悪い行に付て心配をして急ぎ家庭に知らせると「イヤ自宅では大分前からそれで困つて居ります」など、言はれる事もございます。是等も双方で早く知りさへすれば一致して直しますから早くなほります譯で子供の性行の變化などは家庭からも學校からも常々互に知らせあひたいものでございます。併し家庭の方から進んで常に我子の有様を告げて参考に供するといふ事があまり一足飛で望まれませぬならば(教師は切望いたしますが)せめて問はるればかくさずに打ち明けるとか語るべき場合には十分話すとかせられたいもので、これは家庭と學校とが一致して教育の任に當ると申す上からせひ

かくありたい事でございます。

或幼稚園で時々開きます父兄懇話會の際に下等社會の幼兒を集めた組の方の阿母さん達は問はれるは勿論たづねられぬ事までもサラ〜と話してしましますから教育的考のあまり深くない人達の言とは申しながらとにかく幼兒の家庭での有様が見えすく様に分りまして大に參考に便利でございますが、中流以上の社會の幼兒を集めた方の組では中には特に熱心でくはしくよく語られるものありますが、人に由りてはなるべく詞少なな教師の間などを受け流し多くを語らぬといふ傾向のあるものでございます。親心はかうしたものでございませうけれども阿母さんと教師の一致連絡と申す上からはどうか十分に打ち明けられたく又平生其子をよく觀察して眞正の性格を知りそうして教育

の方針を立てられたいものでございます。

◎親心 昨年三月の頃であつた奉天附近に於ける日露大決戦の期も漸やく迫つた時英國陸軍中尉グラハムと呼べる者日本軍の左翼に投じて實戦視察をなさんとて天津より汽車に乗り錦州を経て新民屯に向つたが夫より後は踪跡不明となり途中馬賊の爲に殺されたるか又は露軍の捕虜となりて露の内地に護送されたか頗る其消息がわからなくなつた。そこで本國にある中尉の母は只管に心配して我子の消息を知らんとて東亞在留の知人に宛て照會の書面を發したること數知れず出來得る限りの手を盡したが更に其手懸りを得ないので今は心も心ならず年老いたる婦人の身にて只一人先頃英國を出發して天津に到着し直ちに汽車に乗替へて滿洲に入り自から各地を搜索したが更に其消息を知る由なく此程悄然として天津に引返したそうだが寔に憐れな話である

雜 錄

●夏期講習會のいろ／＼

▲英語講習會 去月十七日より本月二十五日迄麴町區飯田町四

ノ五成美女學校内にて開會、午前午後の二部に分ち會費は各壹圓

廿錢講師は佐藤潔及同爲子の二氏なりと云ふ

▲唱歌講習會 去月十八日より來二十一日まで酒井勝軍氏講師

となり午前は四谷區内藤町唱歌學校事務所午後は中央會堂に於て

唱歌法一切の講習會を開く學費は全期金貳圓

▲宗教講習會 去八月一日より十日間淺草區榮久町教堂に於て

開き佐藤大槻蟬川小野の四氏講師にて印度宗教史心理哲學備教哲

學宗教學を教授す會費は一切不用にて所用の書籍等も貸與する由

▲割烹教授 井上善右衛門及戸張保之助兩氏は神田小川町三十

七番地にて毎週水土の兩日に限り和洋料理方と和洋菓子の製法と

を教授す

▲夏期寄宿舎 東京基督教青年會は例年の夏期寄宿舎を今年は

函根幽邃の地を卜し八月一日より同三十一日まで開設する由費用

は一日四十錢一ヶ月十二圓の豫算にて何人にも加盟を許す

▲夏期家政科講習會 神田區錦町三丁目東京女子教育會にては

八月一日より三十日間家政科講習會を開設し家政の各科専門講師

十名出席毎日開講する由

▲長谷川なつ子外五女史の發企にて京橋區築地三丁目築地小學校

内に家庭看護法講習會を設置し毎月曜木曜の兩回午後三時より二

時間宛看護法の注意、病室、長病者の看護法、發熱病者、病兒及
び健兒の看護法等に就き開講し十五歳以上の女子に三ヶ月修了期
限にて講習せしむと

▲日本弘道會夏期講習 是八月十一日より十日間神田區錦町斯

文學會内に関き倫理道德の諸學研究志望者の爲に各専門家を聘し

て講習せしめ他に大家科外講演ありと

▲女子英語夏期講習會 英文山櫻及花うづら著者藤生貞子の主任

なる牛込區五軒町四十一番地女子英語學會に於ては去る八月一日

より三十日間英語夏期講習會を開き文法、讀方、會話等新式法を

以て速成に教授し殊に女子苦學生に對しては十分の便宜を與ふる

由希望の女子は同會へ紹介ありて可なり

▲シンガミシン裁縫講習會 麴町區有樂町三丁目一番地のシ

ンガミシン裁縫女學院にては八月一日より廿一日まで左の通夏

季講習會を開く

△(會場)麴町有樂町一丁目五番地シンガミシン裁縫女學院新

築校舎△(時間)組午前七時より十一時までる組午後一時より

五時まで△(科目)ミシン使用法、シャツ裁方縫方、ツボン下、

ホワイトシャツ、カラー、カウス、ネクタイ、小兒涎掛前掛、

男兒帽子、水兵服製圖裁縫等△(講習料)二圓五十錢△材料費用

見積合計四圓八十錢△望によりては寄宿を許す寄宿費七圓△院

長泰利舞子

▲音楽遊戯黒板講習會 神田區表神保町一番地國民教育學會

にて幼稚園保母尋常科訓導の爲め左の講習會を開く

(科目)音楽遊戯黒板畫△(講師)館田倉之助松田茂山下ツヤ△

(會場) 神田表神保町一ツ橋幼稚園内△(期限) 八月一日より十五日まで△會費一科一圓二科一圓六十錢三科二圓

▲女子寫眞術講習會 牛込區西五軒町五二寫眞學校にては八月

一日より三十日まで寫眞術及び寫眞製版術講習會を開き尙其講習會員中より理術品性に優れたる女子二名を選抜し貸費生として採用勉學せしむる筈なりと

▲音樂協會講習會 神田錦町三丁目女子音樂學校内音樂協會にては八月一日より三週間夏季講習會を開く講師山田源一即神戸絢子氏等

●感ず可き人々 先頃の新聞に見えたるを記録せんに

▲矢島揖子女史 日本婦人矯風會長たる同女史本年取つて七十三歳の老人、然も本年米國ホストンに開かる、萬國婦人矯風會に日本婦人矯風會を代表して出席すと云ふ其氣力の盛なる真に驚くに堪えたり。世の御隠居様方の一顧を煩はしたきものなり

▲焼芋屋の婆さん 細き煙で世を送る焼芋屋稼業の婆さんが夜の眼も眠らずに働いた精力の結果二十万圓近い財産を積み上げ今では安樂に餘生を送れる成効談を記さんに京橋區本村木町河岸二一號地林藤七(六十三)同妻お惠野(六十九)と云ふ老夫婦あり今は昔維新以前の事なるが藤七が十六歳の時兩親共に此世を去り只一人取遣されし少年の遺産と云ふもの一文もなければ親類打寄り相談の上従姉に當れる府下葛飾郡船守村岩田忠左衛門の娘お惠野と

て其頃二十二歳藤七よりは六つも年輩なるを妻と定め萬事の世話を焼かす事とはなりぬ、されど藤七はお惠野の側に居るが嫌で嫌で我慢がならず終日家を外に餓鬼大將となりて遊び暮らし殆ど手の着け様もなきに妻のお惠野の爲に叱りつけられ窘めらるゝ事も珍らしからざりし中兩人が間に子まで儲けしも藤七が腕白心は尙脱けず相變らず我兒を背負うては犬をケシかけ喧嘩騒ぎに駆け廻るなど稼業の事は些かも顧みざればお惠野は心も心ならず日夜良人を諷め勵まし塵芥の株にて口を糊するもの、只夫のみにて生計困難なれば當時恰も京橋區南鍛冶町二十に小やかな焼芋屋の跡の明きたるを幸に之を譲受けて一錢二錢の店賣りを初め如何に男が嫌はゞ嫌へ一度良人と定まりし人なれば女の纖腕の縷く限り物の見事に世間並の男に仕立て上げんものと健氣にも夜の眼も寝ずして働き徹し其間良人を勵まし子を育て萬事を身一つに引受けて立働くに流石の藤七も太く心に感激して先非を悔ひ夫れよりは店の方はお惠野に任せ置き己は荷車に甘藷を積み市中を賣り廻り夜は夫婦共夜良など歎きて安眠せし事なく焼芋の焚火の溫氣残りたる籠の前に轉がりて二三時間夢を食むるのみ三度の食事に焚く米の如きは五等米六等米處でなく玄米を殆ど選ぶ處もなき程なれば近隣の人々が井戸端の寄合話にも「彼處の御夫婦はよく鬨をつくらぬ事ね」と蔭口を常としたりとか、恚くて尋常ならぬ辛苦の末遂に立派な甘藷問屋と爲りたれど固より雇人などは一人も使はず夫婦只二人の精力の續かん限りに働しにぞ資産は日に増し多くなりゆくばかり去る廿三年の秋頃よりは此商賣を罷めて今の處に移り各區役所の塵芥受買一方に業を營みつゝ塵積りりくて二十

万圓近くの財産家となりたりとは驚くべし、斯かる富有の身となりたる今日にても物見遊山に行くてはなく一家は總て綿服を纏ひ印紳纏を着し昔ながらの飯櫃と柳行李の二品を家の寶と貴み居れりとは珍しき精力家と云ふべし

▲多藝な婦人 戦争が始つて以來今尙ほ横須賀軍港に住み海軍將校夫人間に好遇され小供の洋服、帽子の仕立方、刺繍、編物、造花、壇細工、袋物、押繪、點茶、生花、和洋の音楽等まで教授し居る萬能の婦人あり名を大橋駒子(五十五)と云ひ嘗て下田歌子女史に知られ其推撰を以て新潟縣下の女學校に教鞭を執りしが多藝にして巧みなるより左甚五郎と綽名され丹青を凝らして作れる押繪細工の羽子板は高輪御殿へ召されたる事もあり日露の事起るや女婿細川海軍大尉の出征につき留守宅を守る爲め職を辭して横須賀に來たり重寶がられて引留められ長く留まる事となりたる由なるか夙に野津大將に知られ過般凱旋されし時も製作品を贈り又藝にコンノート殿下が横須賀に成らせられし際同地の和田海軍中佐夫人の殿下に捧げられし薬玉も女史が意を凝らしたるものにて將校夫人連より寄贈になる總ての美術品は女史の手を煩はす事となり居るよし而して女史は素と伊豫國奮大洲藩の家老大橋重之氏の未亡人にて多藝多能は殆んど其本能とも見る可く壯者も及ばざる元氣を有し昨今は進んで英語會話の研究中にて近く英米に遊ばんと準備中なりとは稱すべき事ならずや

▲五十七歳の女學生 耳順に近き身に學生袴を纏ひ女生の群に投じて新たなる知識を得んと勉む、段は違へど大政治家グラットストンが類歸になりて拉甸語を學んだ逸事と比すべき話五十七歳

にして眞面目な勉強に志せる老婆の身の上今の自墜落女學生の三拜九拜して聞くべき美譚なり其次第を詳記せん日本橋區馬喰町三の三川中兼尾方より本郷區元町高等女子技藝學校に通ふ老婦人あり最初は同校の教員なるべしと格別心を留むる者もなかりしが是が女學生なりと知れて近處の大評判となり其身分出京の次第全校知らぬ者もなきに至りぬ老婦人は志摩國鳥羽町字錦町五七四前田蝶子(五十七)と云ひ父は舊藩主稻垣振津守の家臣にて山本佐平と云ひしもの蝶子は廿三歳の時前川家に嫁ぎけるが程なく夫に死別れしより現住所に裁縫の稽古所を開きたり是は丁度三十年以前の事、蝶子は此稽古所一つにて獨身生活を營み來り今は六十名の生徒を預りて志摩第一の裁縫學校となりたるなり然るに近時女子教育の變遷し進歩するに伴れ件の生徒等は割烹造花さてはミシンの使用法など教授せよと求めて已まず稽古所にて亦教授せざるを得ざる必要あれど經濟上の都合にて専門の教師を雇ふ事能はず然りとて其儘になし置く事も出來ざるより己れ東京に出て、勉強し來らんと決心し其旨北原同郡長の妻女に謀りたるに同人も蝶子の健氣なる志を感じ不在中の事は萬事私が引受けて差支なきやうにすべければ見ん事目的を達して歸られよと勧めたり蝶子は倍す力を得、門生出口元子(二十六)と云ふを伴ひて勇ましく遊學の途に上り前記川中方に落着きたるは去る一日の事なりき斯くて數日間同處より通學しけるが時間の都合悪きより寧ろその事と寄宿舎に入り今は若き女生と寢食を共にし熱心に勉強中なるが割烹茶の湯造花作法洋服裁縫袋物編み細工の七科目は如何にしても修業せんと決心なりとは感ずるに餘りある事ならずや、五十になつて

露居面の孫いちりに日を送る婆さん達は勿論天晴れ良夫人たらんと志す若き女達は此記事を讀んで克く面を赤うせざるを得るや

▲東海道汽車中の美談 一昨夜のことなりしが神戸發急行列車

が名古屋驛に停車せし時倉皇と二等車に乗り込みたる某紳士 夫人の計に接して横濱へ赴くとかに三歳ばかりの男の子を伴れたり、やがて汽車の進行するまゝに幼児は何を思ひ出してかシク

泣き始めて父なる紳士が如何に賺しなだめても涙とゞむる氣色もなきに紳士はホト／＼困じ果てたる折柄同室に在りける夫婦連の英人の娘にて五歳ばかりと見えたるが幼心にも氣の毒さうに側に寄り己が持ちたる玩具や菓子を興へなどとして稍久しく慰めける程に彼方もいつしか泣き止みて小兒同士の馴るゝに早く暫し戯れ遊び居たりしが果は互に手を取り合ひたるまゝ其場へ横に倒るゝ

かと思ればやがてスヤ／＼と眠れる兩人が無邪氣さ、紳士はさも嬉しき可愛さに堪へざる態にてそつと扇を開きつゝ眠れる兩人をあふぎ始し一場の人情劇 筋は極めて簡單なれど溢るゝばかりの情趣には傍へに座を占めし乗客何れも美感に撃たれざるはなかりしと云ふ

●美はしき武人の心 昨日午前十時半頃ムーア中将は森山中佐と只だ二人宮内省の馬車を驅り青山

墓地に至り我が軍神廣瀨中佐の墓に詣でらる中將は中佐の先導にて清香えならぬ薔薇花に二三の小

さき花を交たる花環を手にしつゝ軍神の墓前に進

め脱帽して額つき次に花環を墓前に供へ再び禮拜して馬車を霞町方面へ軋らせたるが花環には自分の名刺をつけ其裏面に「英國海軍の名に於てまた勇敢なる海員及び愛國者の紀念の爲」と認めたりと

●女子大學幼稚園新任者 日本女子大學附屬幼稚園にては其主任者として此程甲賀藤子女史を招聘したるが女史は十數年間幼稚園管理及び教授の經驗を有し前後三回渡米し同國に於ける新舊二様の幼稚園教授法をも研究し歸朝勿々女子大學に招聘せられたるものなりと云ふ

●少女の保護旅行 暑中休暇に兒童の團體を伴ひて保護旅行をするは良策なりとは本紙の「暑中休暇と家庭」の記事にも見えたる如くなるが我國にて此事業を創始し不取敢女學生を率ゐて富士登山を爲さんと企てたる千葉秀波氏は已に諸種の旅装を整へ終りたれば先づ其試験的旅行として肥後なる家庭の子女十歳平均なるを六名程引連れ來る八月五日を以て鎌倉に旅行を試むる由にて午前五時新橋發鎌倉に着して八幡宮より大塔宮を拜觀し光

明寺海岸にて海水浴を爲さしめ長谷にて日中休息
 し夫より江の島に赴き六時頃歸京の途に就く由
 ●女子判任官の制定 郵便貯金管理所、鐵道作業
 局等に使用する女子職員中優等なるものを判任官
 とすに決し先づ管理局在勤者十四五名に對し
 先頃辭令交付せられたりといふ
 ●有望なる女樂手 本年東京音樂學校を卒業して
 賞品を受領したる久野ひさ嬢(三三)は滋賀縣大津市
 字馬場一八一農久野彌助の二女なるが生來の跛足
 に體質の虛弱なる不幸が却つて身を立つる本とな
 り十八歳の折音樂學校豫科に入り後本科生となり
 てピアノを専攻し驚くべき熱心を以て勉勵研究今
 回優等を以て卒業し有望なる女樂手として教授間
 に囑目せらるゝに至りしなりといふ
 ●衛生界の小康 從來病疫の流行する時は其の發
 生期早きを常とするに今年は新嘉坡地方に多少虎
 列拉病の發生ありたるも甚だしきに至らず惡疫流
 行の年には最早此の頃上海邊まで虎列拉の侵入し
 來る筈なるに未だ其の兆候だも無きを以て見れば
 外來の病疫としては先づ畏るべきものあらざるべ

く是れを内にして例年慘害を逞うする腸窒扶斯
 の如きも未だ其の發生を見ざれば今年の衛生界は
 多少の事ありとも先づ大体に於て小康と認めて可
 ならん但和歌山縣下にベストの發生あれども目
 下嚴重に豫防中なれば格別の傳播を見るに至らず
 して止まんかと衛生當局者はいへり
 ●實踐女學校卒業生 今回實踐女學校支那留學生
 中特別科に於て師範部卒業生十二名を出したるが
 其成績何れも宜しく中にも年長生黃憲祐(五三)と
 云へるは彼の國に在りても尋常の婦人たらざりし
 趣なるが昨年夏二十名の女學生本邦に渡りて女子
 教育の研究をなさんとするに當り自分も衆生に卒
 先して此舉を賛したるより一行は大に心を強うし
 て長崎に着し直に東京に入りて實踐女學校職員に
 會見し寢食起居皆同校の指示するまに斷然變
 改して純然たる日本生徒に擬し入校以後は寄宿舎
 の修養教場の受業何くれとなく端正なる態度を保
 つことの至れるものから舎監に於ても言語不通の
 女子を預り朝夕の修養に困難せしも黃憲祐の注意
 は暗に舎監の苦辛を滅せしのみならず今日の動靜

は實に本邦女生の長所を模し來りて大に見るべきものあるに至れり又黃國厚(三)と云へるは成績特に優等なるも聊かも自ら慢する所なく各學科の注意極て綿蜜にして且つ同窓生の風儀を化するに足るべき資性なるを以て歸國の後には實に有望の教師たるべしと云ふ

●女子清韓語講習所卒業式 小石川區表町淑徳女學校内女子清韓語講習所にては昨日第一回卒業證書授與式を舉行したるが今回の卒業者は五名に於て現在講習生は十五名なり淑徳女學校校長黒田眞嗣、同幹事井原徳從の二氏は昨年渡清の際此卒業生を清國へ向ける事に就て在北京の服部文學博士等にも計りたるに同地の學校教師と云ふ譯にも行かざるも家庭教師として相當なる家に雇聘さるゝ事は容易なるべく第一回卒業生に就ては殊に盡力せんと意向なりしが今回卒業せし五名は果して渡清するや如何と云ふに片根せい子(十)加藤みよ子の二名は渡清の目的なれど山口たい子(十二)根村すゑ子(十三)大塚はる子の三名は本邦に在りて清韓人の留學に來れるものを教育せんと目的な

り現在生徒十五名の中には卒業後は夫と共に渡清せんとの考へを持ち居れるも多き由なり ●年齢と男女の割合 歐洲諸國では出生數は女子より男の方が多いが、男の死亡が多い爲めに、直に女の方が多くなつて其後は年と共に女の方が多くなるばかりである、所が日本では次の様である

人口千人に付男の數

五 歲 未 滿	五〇八〇	五十五乃至六十歲	五〇、〇
五 乃 至 十 歲	五〇五五	六十乃至六十五歲	四九、一
十 乃 至 十五 歲	五〇六二	六十五乃至七十歲	四七、三
十五 乃至 二十 歲	五〇五九	七十乃至七十五歲	四四、六
二十 乃至 二十五 歲	五〇五五	七十五乃至八十歲	四三、八
二十五 乃至 三十 歲	五〇九五	八十乃至八十五歲	四二、五
三十 乃至 三十五 歲	五〇七五	八十五乃至九十歲	三九、四
三十五 乃至 四十 歲	五〇三〇	九十乃至九十五歲	三六、九
四十 乃至 四十五 歲	五〇三一	九十五乃至百 歲	三〇、八
四十五 乃至 五十 歲	五〇五六		
五十 乃至 五十五 歲	五〇一一		

五十八

●新學士の賣れ口 新聞の報ずる所に因れば東京帝國大學各科新學士の最も賣口よきは工學士にて卒業前より約東濟のもの多く官衙、會社、商店等に於て月收の高下はわれど先づ五六十圓以上、之に反して不景氣なるは文科出身者にて之は昨年卒

業生の尙ほ賣口なくて浮浪せるもの少なからねば運動も中々困難なり、今の處四五十圓の安月給にて地方の中學教師に出掛くるが多し、法科出身者は昨年比して萬事好況の模様なるが特に珍とすべきは法律科出身者が官吏に編入政治家出身者が競ふて實業界に入らんとし官吏を希望するもの殆んど皆無とも云ふべき一事なり、官吏にては各省とも大抵四五名、遞信省の如きは十餘名を任用したるが、就任後間もなく公暇を得て高等文官受験の準備に着手したれば文科新學士の如く奔走の心配なく又實業界に入りしは成績發表と同時に就職して已に地方に赴きたるもの多し但し個人經營の事業に従ふ向は希望の方面に紹介者を得ざれば面白く運ばず兎角傳手なきものは何時までも履歴書を擔ぎ廻り苦しまざれば二十圓前後の安月給にて就職するもわり随分苦心を要するものなるが本年は先づ賣口よき方なりと云ふ

●幼稚園手技圖形の出版 先頃文部省より各府縣を経て全國の幼稚園に配付せられたる女子高等師範學校附屬幼稚園の保育要項に就きて何れの府縣

にても該要項附屬の別冊たる手技圖形の頒布を希望する有様なるに同圖形は寫本にて附屬幼稚園に備付の外一本も餘冊なきことゝて其請求に應ずる能はざりしが頃日小石川區江戸町二四番地なる高等女子學會にては之を石版に付して美麗に刊行し實費を以て全國の幼稚園及保姆の人々に頒たんとて目下準備中の由聞及べり出來の上は幼児保育法研究者には至極便利のものとなし云ふ可し

●女學生の富士登山 昨年の夏は東京女學生の富士登山を試みたるもの多かりしが是れも一種の流行として漸次地方の女學生に及び兵庫縣明石女子師範學校生徒二十七名は藤堂校長に引率されて此ほど富士登山を終へ、長野縣松本高等女學校生徒二十名、同長野高等女學校生徒も去る二十三日登山し此外にも尙地方女學生の團體にて登山計畫中のもの頗る多しと云ふ

雜誌と新聞

▲戀愛小説大攻撃

加藤 弘之氏

女學生の風儀の悪いのは學校と家庭と社會と此三つが持合て害してなる、女子の品性修養に就て先づ私の考を言へば、小説を讀む事、これが實に悪い、新聞は讀まぬ譯にはゆかぬから新聞の小説には困まる、一体新聞が小説を載せるなど職務以外の事をやつている、社會改良の一方法として戀愛小説など載せぬやうにして欲しい、讀む方では新聞を讀むために新聞を取るのか、小説を讀むために新聞を取るか解らぬ、隨て新聞を取れば小説を讀む事は先づ防ぎきれない、私は新聞社が、同盟して少なくとも戀愛小説を載せる事だけは全廢せんことを望む

▲虚榮心を去れ (精神界第六卷第六號)

汝の虚榮心を去れ。虚榮心は苦惱也、罪惡也。我等この心に捉へられたる時は惡魔の身を襲ふと感じ恐れて是に遠ざからざるべからず。然るに汝、時にこの惡魔

に近づくな快とし、この惡魔の命に従ひ、命を果さざるを憂へ、命を果すを樂むの傾向はなきか。汝の虚榮心を去れ。虚榮心を去りて衣食住の問題に苦惱は尠く實際の問題に苦惱はなかるべし。ただあるやうにあれ。銅は銅としてあれ、黄金の裝ひをせんとあせる勿れ。錫は錫としてあれ、銀の裝ひをせんとあせる勿れ。貧者は貧者らしく、富者は富者らしく、愚者は愚者らしく、智者は智者らしくあれ。

▲女子の品性修養に就て『女子文藝』

第一卷第七號)

女子は職闘員として地上に遣はされたものではない、天から遣はされた看護婦である、即ち實い教育者である、相互に嫉妬をし猜疑したりすべき筈はない、神が小兒養育を婦人にお任せなされたのは子供を神らしくさせる爲である然るに一般婦人は品性の下劣な爲めに子供をケモノらしくしてしまふ、修養と教師とを間違へて容貌ばかり飾らうとしてゐる、己に克つ獨を慎むといふことは品性修養の一方法ではあるか、神を説かず人の道ばかり教る儒教は効が薄い、佛教は婦人

を惡魔と罵り基督教は人を罪の子と斷る、これでは婦人は未來永劫浮ぶ瀬がないと云ふものである、そこに行くくと日本國教は健全圓滿な發展をして有らんと日本の光榮を女子の本性に歸せしめてある。皇祖天照大神こそ女子が品性修養の一大模範である

▲獨身論 (三輪田元道氏)

近來獨身者の増加する傾向あり予は其原因を尋ねて六を得たり(一)經濟上の運命は獨身者増加の一原因にして之を國に見れば佛蘭西の如き其適例也普佛戰爭以來國民經濟上の悲境は中流以下の社會をして結婚難を謳はしめ其結果は竟に獨身生活の流行となれり朝鮮の細民も亦恐く其例に漏れざるべし(二)禁欲主義も亦一原因たるを失はず僧侶の如きは即ち此主義より出づる獨身者なるが思ふに欲望を解脱し煩惱を去るは佛徒の唱道する所にして兩性的欲望は人類欲望の最も大なるものなれば先づ情欲の禁壓を試みんとするの主意に外ならざるべし(三)境遇の結果此部類に屬すべき獨身者の中に或は妻を亡ひ遺兒の幸福と一家の平和の爲に一身

を犠牲とせる者もあるべく、或は弟妹に學費を給せんが爲に營々として一身を顧ざるもあるべく、恚は至大の同情を注ぐべき獨身者なり(四)成功主義の獨身者は社會の有力者に多くゲーテ、カント、スパンサーの如きは其顯著なる者なりゲーテは獨身に非ざりしも其屢々婚約を破りて顧みざりしは恐らく此主義よりせるものと云ふべく此主義に因る獨身者は獨身生活其物を喜ぶにあらす唯已れの欲する所を遂げんが爲めに性欲を擲うてるものなるべし(五)雌雄淘汰により孤獨の生活を送るものは最も同情すべき獨身者にして此淘汰には精神の内外に於ける長所財産の關係材能及び名譽外貌親切等最も有力なる標準となり外貌は婦人に於て殊に有力なる標準となるもの、如し(六)失戀の結果こは道德學者の口にするを悲む所なるべきも道德は社會を離れて立つべきにあらず社會に係る獨身者の存する以上斯る語を用ゆるも亦餘義なからん、以上の各種を綜合すれば獨身者にも有害なるものと無害なる者とあり社會上の見地より言ば獨り己をよくして満足せんとする獨身

者は好ましからず自善自棄の獨身者は危険なるものと言はざるべからず成功主義の獨身者は概して有益なる獨身者なるも此は男女の性欲以上に大なる理想を有するものにあらざれば學び得る所にあられば斯る獨身者は鼓吹するも増加する者に非ず之を要するに獨身者は有害ならざる限り社會も之を不徳視すべき理由なかるべしフランシス、ペーコン曰く結婚せざる人は良き友良き主人にして善き仕事をなす人なるも善良なる國民と云ふ可らずべ女房子供を持たざる人の人情に薄き所あるは争ふ可からざる所なるべく獨身者其人の利害問題よりしても妻帯の利益なる事多し(日本弘道會講演)

▲未亡人再婚論(棚橋絢子女史)

軍人未亡人の問題に就いては私は絶對的に再嫁を否認する者では無いませぬ情の上から先夫を忘れるとの出来ぬ爲めに再嫁をせぬと云ふ婦人ならば之れは誠に申分がないと云ふは今日の色々六づかしい生活問題などもあつて一々貞女兩夫に見えずと許り構へても居られぬ場合がありますから若し子供もあり自分も外

に便りがない身の上と云ふならば再嫁するも良からうと存じます併し根本的に見ますと一休女子の學問を修めるのは這際時の役に立てる爲では無いままか結局何事も夫許りを頼りとせず萬一夫が亡くなつたにしても自分が立派に子供を育て、行くだけの働きの途を覺える爲の學問だと私は斯う思ふので無い最も之は自分の經驗から割出した傾きが御座いますけれど若し今度の様な場合になつても其未亡人の方々が互に何か一つ自活の出来る藝能を覺えて御出になつたならば何も此頃の様に入釜しく未亡人問題を外から彼れ是れと議論さるゝ事はなからうと存じます然るに今日の學問を爲さる女學生の方の中には學問を以て身の飾りとする夫れを以て誇りとしやうと云ふのはありますけれど實地の必要に備へやうとて學問をしてる方はどれ程いませう私は今日の女學生の方々が此の點に於て大變に間違つて御出ではないかと存じて居るので無い(日本)

▲衛生の積極的方法

(醫學博士片山門嘉氏)

衛生普及の根本的方法、通俗衛生の積極的方法とは如何なるものであるか、私の考へは外ではない、運戯の普及獎勵といふことである。運戯の普及獎勵こそ、實に積極的衛生普及の最要手段であると思ふ、運戯も運戯によるが、巧妙なる運戯といふ者は、即ち身體強壯の原因となり、精神慰安の資糧となり、智徳修養の一端となり、頓て無病長命の基となる者である。斯の如く運戯といふものは人間緊要の條件であつて、其 價値たるや、業務勸勵、智徳修養の如く絶體的價値のあるものである。然るに我國從來の風習によれば、運戯といふものは、全く一種の贅物であつて、固より日課としてすべきものでない、用事のない者が一時的にすべきもので、してもしなくとも宜しいもの、如くして、夢にも獎勵などは致さぬ、是れ實に衛生上體育上慨嘆すべきことである、此の根本的誤解を覺醒するのは日下の急務である。運戯の人生に必要なもの、運戯の日課として行ふべきとを自覺すると、西洋人の如くならねばならぬ、それで如何なるものであるかといふに、文明の

運戯として見るべきものは、各學校又は軍隊、稀れには諸種の團體家庭に行はれて居るやうであるが、其の多くは知らず識らずの中に運戯を輕視して居る有様である、併し近來は運戯を以て、國民教育の必須料として課して居らるゝなどは喜ばしき次第である。其外運戯々々と申すものは、都鄙貴賤の差別なく行はれて居ないではないが、其の文明の運戯として數ふることは出來ぬ。

積極的衛生普及の最良 手段たる運戯普及の方法といふのは、如何にせば宜しいかといふに、これは先づ町村々に遊戯場を設けて衆人こゝに集つて運戯を行ひ、其れで以て自ら身體の強壯を計り精神の慰安を得るやうにせねばならぬ。兒童學生の類は夫々學校にあつて運戯をなすの機會はあるが、其の外の人は青年も老年も男子も婦人も、一定の時日に一定の運戯を行ふことに勉めねばならぬことは、恰も兒童の小學校に於て相應なる遊戯をするやうに、大人は大人だけに相應する遊戯をせねばならぬ。

▲現代女子の美點 (石黒忠憲氏)

現代妙齡女子の舊婦人に比して優つて居る點を二三述べて見やう、第一は體育である、能く運動もし、食物の思ひ嫌ひもなく、滋養の爲には何でも喰ふから体格が餘程好くなつて來た、第二は知識の點である、其の進歩したことは殆んど對照にならない、文學、科學、社交上の事、一通りは談話が出来る、第三思想の點に於ても獨立し得るやうになつた、昔の女は一も二もなく夫に寄り掛つたものである、第四家計の上に於て、昔の女は唯約かに行届くといふ位のことであつたが、今の女は簿記法で遣つて、一定の規則の下に家政を執り得るやうになつた、第五應對に於ても、夫の留守の場合にも來客に對して應接には決して事を缺かぬ、第六夫を幫助する上に於ても昔は所謂内助に止まり家事を補助する位のことであつた、今の女は上中流を通じて表面き夫の事業を幫助して行くやうになつた、第七獨立生活を望む女子が近年に至つて漸々多くなつた、是れは予か持論から云へば賛成されぬが全く女子教育が進み、實力に富める女子が増加した結果と思はれる

會費領收 (自明治三十九年六月二十六日) 報告

金額	拂込	月日	姓名
一、〇〇〇		(自卅九年四月) 至四十年一月	原 須賀
一、二〇〇		(自卅九年一月) 至卅九年十二月	長 寛子
四、〇〇〇		(自卅九年四月) 至卅九年八月	武石八重子
六、〇〇〇		(自卅九年七月) 至卅九年十二月	瀨 上 重子
三、〇〇〇		(自卅九年四月) 至卅九年六月	村 上 いく
五、〇〇〇		(自卅九年四月) 至卅九年八月	須 子 とみ
五、〇〇〇		(自卅九年七月) 至卅九年十一月	西 浦 ぶつ
一、〇〇〇		(自卅九年七月) 至卅九年十二月	森 本 たみ
六、〇〇〇		(自卅九年七月) 至卅九年十二月	土 保 かみ
六、〇〇〇		(自卅九年七月) 至卅九年十二月	湯 淺 君子
一、〇〇〇		(自卅九年六月分)	八 木 てい
二、〇〇〇		(自卅九年五月六二ヶ月分)	廣 瀬 まさ子
二、〇〇〇		(自卅九年五月六二ヶ月分)	小 原 ふじえ
二、〇〇〇		(自卅九年五月六二ヶ月分)	小 野 義倫
二、〇〇〇		(自卅九年五月六二ヶ月分)	伊 藤 成
三、〇〇〇		(自卅九年四月) 至全年六月	澤 藤 香
三、〇〇〇		(自卅九年四月) 至全年六月	岩 田 よ
三、〇〇〇		(自卅九年四月) 至全年六月	保 木 科 修
三、〇〇〇		(自卅九年四月) 至全年六月	高 木 すみ
三、〇〇〇		(自卅九年四月) 至全年六月	田 初 子
三、〇〇〇		(自卅九年四月) 至全年六月	萬 澤 初 子
三、〇〇〇		(自卅九年四月) 至全年六月	笹 地 豊 美
三、〇〇〇		(自卅九年四月) 至全年六月	小 岸 ゆ
三、〇〇〇		(自卅九年四月) 至全年六月	福 田 ふ
三、〇〇〇		(自卅九年四月) 至全年六月	石 川 か

三、〇〇〇	(自卅九年四月) 至全年六月	飯島はつね
三、〇〇〇	(自卅九年四月) 至全年六月	酒井冬子
三、〇〇〇	(自卅九年四月) 至全年六月	大 川 浪
三、〇〇〇	(自卅九年四月) 至全年六月	武 藤 とめ
三、〇〇〇	(自卅九年四月) 至全年六月	横 田 けい
三、〇〇〇	(自卅九年四月) 至全年六月	伊 藤 のぶ
三、〇〇〇	(自卅九年四月) 至全年六月	岩 崎 こま
三、〇〇〇	(自卅九年四月) 至全年六月	清 水 寛二
三、〇〇〇	(自卅九年四月) 至全年六月	三 谷 鏡
三、〇〇〇	(自卅九年四月) 至全年六月	吉 川 ふみ
三、〇〇〇	(自卅九年四月) 至全年六月	星 野 香
三、〇〇〇	(自卅九年四月) 至全年六月	太 田 ね
三、〇〇〇	(自卅九年四月) 至全年六月	島 田 つね
三、〇〇〇	(自卅九年四月) 至全年六月	忍 田 代
三、〇〇〇	(自卅九年四月) 至全年六月	島 田 つね
三、〇〇〇	(自卅九年四月) 至全年六月	鳥 居 しげ
三、〇〇〇	(自卅九年四月) 至全年六月	市 川 源三
三、〇〇〇	(自卅九年四月) 至全年六月	羽 田 よし
三、〇〇〇	(自卅九年四月) 至全年六月	三 田 利徳
三、〇〇〇	(自卅九年四月) 至全年六月	宿 利 のぶ

心の花

編輯主幹 佐々木信綱

第十卷第八(八月一日發行)

井上博士の『荷田春滿と其知己』は世に知られざる翁の逸事を紹介せられ三浦文學士の譯『舞踏會』は可憐を極め小杉博士及樫尾文學士は『古今傳授』に就て縱横に論ぜられ八風氏の譯『葬具師』は鬼氣人を襲ひ昇曙夢氏の『漲水物語』亦怪なり其他井上通泰石樽千亦佐々木信綱氏を始め美文に韻文に作物例に因て賑はしく綠蔭之を繙けば清風自ら生ぜむ

毎月短歌題あり、投稿を歓迎す、

半年前金七拾五錢、見本一冊拾三錢

日本橋區本石町一ノ一

竹柏會出版部

婦人と小供
愛讀者に告ぐ

左記割引券切抜き御注文の方は
弘道館發行書籍は定價の壹割五分引にて御注文に應ず

但し特價物(日本家庭辭書●特價の類)及び雑誌は五分引とす

弘道館發行書籍割引券

本券有効期限

(明治三十九年九月三十日迄)

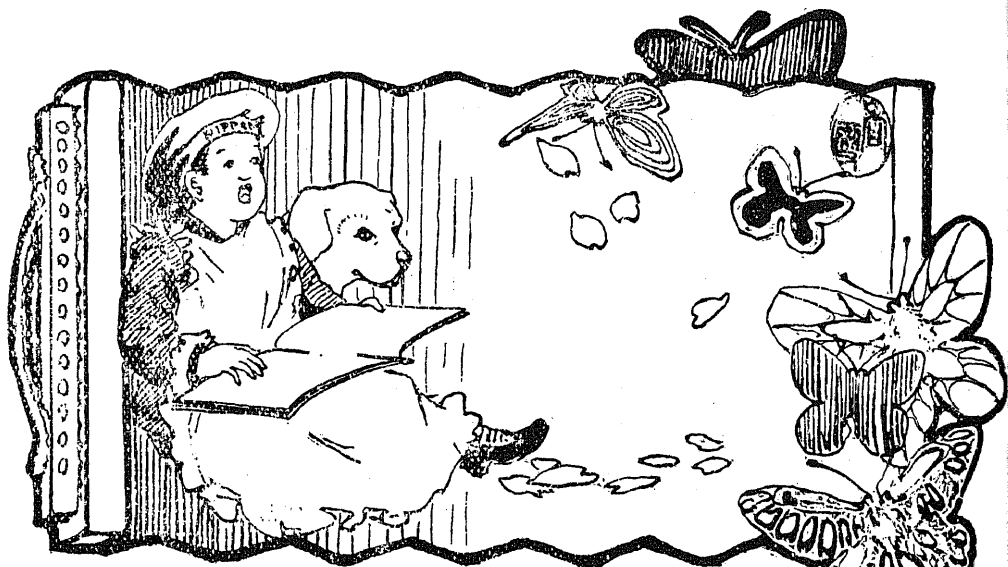
東京弘道館券

東京京橋區南大工町一

弘道館

◎本券は婦人と子供讀者以外に應用する事御斷申置候

◎弊館發兌目錄御入用の方は郵券貳錢を送付せらるれば直に遞送す



花ちゃん

芙蓉

これはお月様が一軒の小さな家の窓から室の中をのぞき
 或晩御月様が一軒の小さな家の窓から室の中をのぞき
 こみました。丁度部屋の中では五ツばかりの女の子が
 可愛い聲をして御祈をしていてる處でした。この可愛い
 いしい女の子は頼りに御祈をしていました。『パンチア
 タヘタマへ』と云ふ句の次に何かウニヤくと云ひ足し
 ました。そばにいた御母様は早速きくとがめまして『コ
 レ花ちゃんや御前は何を云ひましたか』
 とききますので、花ちゃんはきまり悪そうにモジク
 しながら下をむいてしまいました。御母様が『何をいつ
 たか云へないので』と云ふと重ねての尋ねに花ちゃんは泣
 出しそうな願をして
 『カアサン御めんさい！花ちゃんはパンとそしてた
 くさんのパンを云ひましたの』と答へました。丁度雲
 がかゝつたのでそれから先は御月様も見るとが出来な
 かつたと云ふ事です。

をしまい

おぢいさんの肖像

彌

彦

二

ある町はづれに、繪紙やいろくのおもちやなどを賣っている一人のおばあさんがありました。丁度春先の事でありましたが、大層御天氣がよく雲雀などが嬉しそうに空で囀っていて、むこうの方の野原はまるで青い毛氈をしきつめた様に、若草が萌え、小川の水は石にぶつかっては面白そうにシャボく何か云ひながら踊っています。ほんとうに誰でも浮きたつ様なたのしい景色ですのに、おばあさんは何したのか悲そうな顔をして店の片隅にシヨンポリと座っていました。一体このおばあさんは、この家で生れこのうちで成長くなりこのうちから外へ旅などした事

は一度もありません。そして毎日く小さな小供を相手におも
ちやなんか賣って暮していました。大變にいゝおばあさんでし
たがどう云ふ物かだんくと貧乏になって今日と云ふ今日はあ
したの御米もない様なしまつになつてしまいましたので可愛
そうにしまいにはおばあさんはおいゝ泣だしてしまいました。
所がむこうから雨合羽をきた四十恰好な丈夫そうな一人の男が
大股に是も何か頻に考へながらこっちへやつてまゐりました。
野の方や小川の方なんか見て
變れば變る物だどつぶやいていました。やがておばあさんの
店先へドンくとはいつてきて

男「おばあさんくむかしこの店に大層親切ないゝおばあさんが

いたが今どろしたか知らないかへ」

ときくますとおばあさんは淋しそうに笑って

老婆「ハイ。それは私です」

男「ホイソウく、何だ自分が年をとった事をすっかり忘れていた自分ももう四十だっけ」と云ひながら又なつかしそうにむこうの野原の方をジーツと眺ていました

長「ア、おばあさんはむてうの野原に大きな家が建っていたのを知ているでしょう」と意味ありげに尋ねだしました。

老婆「ハイ存じてをりますともあれは物持の善左衛門様の御邸がたつていましたのです。ほんとうに御氣の毒な金善様はーヨア金善様では御別りにならないかもしれません、私共等は御名前

は云はず金善様くくと申してをりました、ほんとにいい御方で
したが御なくなりになるによくは存じませんが親類の方に大層
よくばりな方がいて金善様の財産は皆とられてしまいましたと
か云ふ事です

おばあさんは又言葉をついで、

「それに若様の善一様とをっしやるのが愛らしいばっちゃんでし
てよく私どもにゑがみを買いにいらっしやいました、その方
も今はどこにいらっしやいますか別らないとか云ふ事です」
善一様と云ふ言葉に男は拱いていた手をとっておばあさんを見
ながら、

「それから。その善左工門様の御墓を知らないか？ときくますと、

老婆 それも あなた 昔しは立派な御石塔がありましたのですが、
只今では共同墓地の隅ッこに小さな御墓だけあるとか云ふ事
す

この答をきゝましてこの男は悲しそうに首をたれました。その
とたんにいろくゝな繪紙と併んで置いてあった一ツの古びた品の
いゝおぢいさんの肖像のかいてあるきたない額に目がとまりま
した。

男「おばあさん この額を私に賣てくれませんか」
おばあさんはびっくりして、

老婆「それはとーに私が糶賣店でごく安價に買ったので御座います長
年店さらしにしてありますがおもて買つて下さる方があればいか

程でもよろしう御座います」と答へますと男はだまって五十錢銀貨をほをりだしその肖像を手にとり上げました。

おばあさんは大層困たと云ふ風で、

老婆御客様 私は剩錢をさし上げたたくも只今一文も御座いません

男「御剩錢はいらない五十錢で買ったのだ」とドンくと出て行きそ
うにしますのでおばあさんは素より正直一方の人ですから、

老婆「イエこんなつまらない額に五十錢頂たゞいては濟ませせん。そ
れではどっかに行てくづして参りましよう」と云てどうしてもき
ません。

そこで男の申しますには

「おばあさん、私もおばあさん同様貧乏なのだ、イヤ御ばあさん

よりもっと貧乏かもしれない、全くの所私はこゝに五十錢しか
持ていない、之れが私のすっかりの財産だ然しおばあさん、私
は自分の御祖父様の肖像を私の財産みんなで買ってもちつとも
高い事はありはしない。それをいゝながら男はドンく共同墓
地の方へ額をもつて馳けて行ってしまいました。
しばらくすると先程の男は、まるで氣ちがいの様になつて復お
ばあさんの店へとびこんでまゐりまして、いきなり店にかぎつ
てあつた御もちややゑがみを往來へ皆投だしてしまいました。
男「おばあさんこんな物は皆近所の小供にやつておしまいよ。私
はねおばあさんがさつき云つた善一だよ。御父様の御墓の前であま
り悲しかつたのでついさつき買った額を地面へ投げ出した、そ



香雪

のはづみに額がこはれてなかくらそればく大層な御金がこぼ
れだしたもう私ば今日から大金持御祖父様は御自分の額の裏に
たくさん御金をしまつてをきになつたのだ

* * * * *

善一はもと自分の家のあつた所に大きなく家をたておぼあさ
んをひきとつて二人で安樂にこの世をくりました世間では善
一の事を又むかしの様に金善様くと呼ましたとさ

めでたしく

カンニトフェルスタント

豊

子

是は少し大きい人のお伽話！獨乙の片田舎に一人の御百姓が
りました。この御百姓はどうも自分の境遇がつまらなくてたま
りません。どうかして御金持になりたい、御金があったら定めし
たのしい事だらうなど、しやう思っていました、とうく決
心した末、和蘭のアムステルダムは大層御金まはりのよい所た
と聞いていたので、何かうまいもうけ口でもあるだらうと、住な
れた自分の村を出發致し、アムステルダムへやってみりまし
た。何しろ賑かな事と云たら、鎮守様の御祭より他に見た事の
ない御百姓三が、急にこんな繁華な都へやってきましたのですから

見る物きく物皆事新らしく物珍らしく、思はず知らず或る立派な御邸の前迄やうて参りました。御百姓はこの御邸の大きくて立派なのにつくづく感心致し、

「ア、自分もせめて一時でもこないゝ住居にいて見たいなあと思ひました。それにしても誰がこんな贅澤な暮しをしているのだらうと折から通りかゝた和蘭人をつかまへて、

「この御邸はどなたの御住居ですか」と尋ねました。この和蘭人は合憎獨乙語を少しも知らなかつたもんで大層困つた末和蘭語で、「カンニトフェルスタント」あなたのおしやる意味が別りません」と云つてドン／＼いましてしました御百姓三は

「ハ、ア之れはカンニトフェルスタントと云ふ人の家だな」と合點

をしたので

「羨ましい事だカンニト氏は幸福な人だ」と思ひながら又プラくと歩てる中、波止場のそばに出ました。名にしをふ出船千艘入船千艘と云ふアムステルダム的事了から、それはくたくさんの御船の檣は林のように併でいます。御百姓はまた呆れかへつて頻りと見ていますと、一艘特別に大きな新らしい御船から、たくさんの人夫がセツセと荷物を陸上げしてました。御百姓は又

「偕てく羨ましい事だあんな大きな御船は一体誰が持っているのかしら」と思ひましたので人夫の一人に「この御船の持主はどなたで御座いますか」と丁寧にききましたすると人夫はうるさそうに、

「カンニトフェルスタント」と答へて行てしまいましたこの人夫もやはり獨乙語を知らなかつたのです。

御百姓は心中で

「之もカンニト氏の持船であるかほんとうにあんな大きな家やこんな美事な御船を持っているカンニト氏には恐く不幸と云ふ物はなからう」どうして自分はこのなに貧乏に生れたのだらう」とスゴく港口から山の手の方をさして参りました。すると向ふからこんだは御葬式がやってきました。鐘の音が悲しくひびいて夕日が残光を淋しく白衣の人々の上に投ていしました。御百姓は何だか氣ざむしくなつたので丁寧ていねいに棺におじぎをし、偕行列の後の方にくつついてやってきた一人の羽織袴のしさいらしく考へて

いた男に

「どなたの御ともらひですか」と小聲できゝました。この男は大層喫驚した様な風で一才立どまりましたが、唯カニトフェルスタント、と云たきりで行すぎてしまいました。

この答をきいた御百姓は大層感じた様子でしたがやがて深くためいきをついて

「ア、あんな贅澤なくらしをしていたカニトフェルスタント氏も死ねば鏝一文も身につけて持ていけはしない榮華は夢の様なものだ齷齪と他人の生血を吸ふ様にして御金をためた所で、あの世への御土産は小さな花束か一ツ。やっぱり住慣れた故郷で親からゆづりうけた御百姓が一番たのしい。さあ歸りましようく

と。獨言を云ひながら自分の村の方へテクくと歩をはこびま
 したとさ
 をわり

* * * * *

「お母さんは何に？」

「夫れはねお魚の卵！其小さな一つ／＼の粒が皆お魚になるのですよ」

「それを？一つのお魚がこんなにたんと卵産んで大變ね！幾つあるでせう。」

「花ちゃん、お利好でもね其勘定は出来ないはね大變でせう？」

(ひらめの産卵数七百万個、其他も二百万乃至三百万)



大好評毎月號賣切再版三版眞價知

日本第一

婦人世界

實用專一

八月三日發行 第一號 第八冊 拾五錢 郵稅 五厘 半 分 九 稅 錢 壹 年 錢 拾 圓 錢

繪 口 山階宮妃殿下の最近御尊影
 三宅花圃女史の家庭と其畫
 蒙古女學生の書と河原女史
 社交俱樂部の婦人喫茶會員

彩色石版
 繪手本

夏の朝……………中澤弘光
 雁來紅……………跡見花蹊
 瀧……………中澤弘光

婦人の日常生活法

村井弦齋

何の運動が婦人に適するか
 散步は如何にすべきか
 精神の運動は如何にすべきか
 足の運動は如何にすべきか
 手の運動は如何にすべきか
 接客は如何にすべきか
 交際は如何にすべきか
 見よ 日本婦人必讀の大文字を 讀人は大不幸なり

弦齋夫人の料理談

△冷し咖啡は如何にして造るか
 △永箱は如何に使ふか
 △レモナードは如何にして造るか
 △桃は如何にして料理するか
 △唐菓子のは如何に料理するか
 △赤茄子は如何に料理するか
 △イチボ肉は如何に使ふべきか

●小兒汗もの預防及治療法…ドクトル加藤照磨
 ●夏中休暇と子供…大村仁太郎
 ●家庭用ソムネ製造器…有田博幸
 ●アイスクリームの製法…島田博幸
 ●上海水浴と温泉…磯原操
 ●上海までの船中日記…藤原操
 ●住宅花圃女史の面影…藤原操
 ●買物案内の心得…藤原操
 ●妊娠中の心得…藤原操
 ●婦人病と眞實…藤原操
 ●天人菊(小説)…藤原操
 ●墓中休暇と子供…藤原操

後付一

東京 元兌發 南橋 十町 番地 實業之日 振替 貯金 貯座 口貳 參貳 六番 賣捌 全店

皮膚病専門博士實驗證實

帝國藥學專
攻藥劑師

大島 和吉 監製



本劑は徹菌病理化學を活用し創製したる二十世紀最新式の艶美劑で

色を白く

し、つやを能

し、にきび、ハ

タケ、吹出物、

等他に比類なき妙効を顯した事は數多の禮狀に依て確信する所である其他

す、等で困難する人は早く本劑を御試用あれ

▲定價

小十錢、大二十錢、特製五十錢
保證壹圓送料二錢、四錢、十錢

東京市下谷區上野町一丁目

發賣本舖 大嶋藥局

歌集あぼけの

佐々木信綱氏選
三宅克己氏畫(クロース製美本)
一條成美氏畫

現今の歌壇に清新の歌風を唱道せる竹柏會の俊秀が近作を、佐々木氏の精選せられしもの、短歌數百首新体詩十數篇。作者は川田順、石樽千亦、印東昌綱、大塚楠緒子、片山廣子、橘糸重子等十二の才子才女とす。戀愛を歌ひ、自然を詠し、悲哀の情を寄せ、幽遠なる思想を掩し、讀者をして例へば美はしき曙の野邊にさまよひ入るの思あらしむ。詩歌に志す人の好摸範憂ある人の慰籍者、或は旅中の友として綠蔭必讀の好詩集なり

正價金五拾五錢郵稅金八錢

神田錦町一丁目十番地

修文館

數年難治の慢性胃病を根治し
消化機能を強壯健全になす靈藥

胃病根治劑

從來世に胃病藥
頗る多しと雖も
も昔一時の苦痛
を凌ぐ制酸劑
即ち重曹、苦味劑

の如き一時おさるゝムネスカシ的密式製藥のみにして未だ嘗て根治的に
其病の基因を斷つ良藥あるを見ず、本劑は獨乙國高名大醫ノーデル氏處
方に基き本邦胃腸患者に適切な最新有効藥を配合し、百万實驗其奏効
顯著なるを確證發賣せし最も進歩せる完全なる新藥にして數年難治の
頑固慢性胃病にても根誓つて根治し胃腸を健全に
なる慢性胃病にても根誓つて根治し胃腸を健全に
壯ならしめ食慾を促進し便通を快くし氣力を壯にし精神を爽快活潑に
する空前の完全最新藥なれば從來種々維多の胃病藥を用ひて効なく多
年病苦に呻吟せる患者は一日も早く本劑を服し病根を斷絶し無病強健
の大幸を得られよ輕症は壹劑重症は貳劑慢性症は參劑にて根治確證す
(藥價) 壹劑四拾貳錢 貳劑八拾錢 參劑壹圓拾錢 郵券代用貳劑増し

新發明 美色白新劑

本劑は近時佛國パリス費紳淑女間に最新流行の發明劑にして如何程色
黒き男女性にても特別製純白色に變化し艶美の容貌となる
劑を用ひれば忍ら肉體純白色に變化し艶美の容貌となる
多の色白藥を用ひて奏効なき人は速に本劑を試み少くも眼前に峻烈なる
特効を覺ゆ眞に奇効顯著の確證新劑 價は並製金壹圓貳拾錢特別製金壹
圓七拾錢

以上專賣元 東京市神田五日新館藥房
二藥 軒町拾九番地

月やくおる

本劑は胃腸を痛
めず子宮を書せ
す如何程長き月
經閉止も心ず忍
び快通流

下する特効あり本劑參劑分を用ゆれば二三ヶ月間滞りたる月經にて
もキレイに流下す又特別製分を用れば半年以上の月經閉止及び
血塊にても必ず立處ろに流經す且
子宮病血の道を全治し惡血毒血
を掃するを確證す但し本劑は其奏
効程顯著なるも毫も衛生
めて峻烈顯著無害なり婦人諸
君安心して試藥あれ價は壹劑分七拾錢
貳劑分壹圓貳錢參劑分壹圓七拾錢特別
製分貳圓參拾錢 大盛々羨しき無効
(注意) 本劑の類似偽藥類はる用藥者は深く注意ありて「專賣元日新館藥房」
る類似偽藥類の名義に注意し購求あらんとをよ



わきがが臭

根治確證
新發見藥

醫藥發見方手を盡せし如何程誓つて根治し決して再發或は他
種劇烈の慢性わきがにても世紀的改良根治新藥なり速に試み苦惱を脱せよ價は輕症根治分六拾錢
重症根治分壹圓貳錢頑固劇烈の慢性症根治分貳圓貳拾錢着金即刻送藥す
郵券代用必ず二劑増の事

以上專賣元 東京市神田五日新館藥房
貳藥 軒町拾九番地

(電話) 下谷五四六番

算術教授の虎の巻

長野縣立高等
女學校教諭
福岡縣立師範
學校訓導
白土千秋先生
阿部清見先生

國定
準據

算術教材資料

合著

定價

上卷 五十錢
下卷 六十錢
郵税六錢
郵税六錢

尋常科ノ部
全二冊

國定準據算術書の發刊頻々として出で寧其の數の多きに過ぎたるが如し然れども所謂毎時配當的器機的教案なるものにして實地教授者をして自由に活用せしむるの餘地なく而も材料の選擇排列は趣味と嶄新とを欲けるもの比々是れなり本館茲に見る處ありて敢て著者の勞を煩はし本書を公にす實に優秀無比の好著にして雞群の一鶴たるべし今本書の『特色』の二三を擧ぐれば左の如し

本書の特色

- 一、教材は國定教科書との聯絡に注意し兒童に經驗界裡にあるもの及生活上必須の事項に求め勉めて興味ある事實をとれり
- 二、事實問題に於ける事實的數量は總て精密周到なる調査を遂げたるものなり
- 三、問題の撰擇排列並に提出の方法は嶄新にして興味ある方法を考究し兒童として自ら計算動機の奮起あらんことを勉めたり
- 四、問題の提出は其の順序系統を精密にし前の問題は必ず後の問題の準備關鍵となり兒童をして知らず識らずの間に算法の階段新形式の中に進入せしめんとせり
- 五、本書を參考する時は教授者は更に自ら諸種の興味ある問題を作出すことを得應用極めて便宜にして自由なり

後付の五

發行所 東京市橋本區南大町四番 弘道館

文部省視學官農學士 針塚長太郎先生 共著
帝國大學農科大學助手 山崎德吉先生

養蠶教授指針

▲小學校教授用

針塚視學官農村の小學校に養蠶を課するの教育上實益上極めて必要なるを感じ、斯道に精通せらるゝ山崎先生と共に本書を著して之を本館に授けらる本館又國家に盡すの微意を以て、全く營利を外に措き汎く其實行を望んで茲に殆んど實費の定價によりて發行するに至れり、記事平易にして簡明且つ多くの精細なる挿畫を挿み記事の足らざるを補ひたれば一讀に實行することを得べし、尙本書は獨り教師諸君の參考用に止らず農業補習學校乙種農學校或は講習會等の教科書として最もよろしく又獨習者の手引には殊に適當せるものと謂ふべし

後付の六

菊判 形 全 一 册
寫眞版木版插畫十數個
正 價 金 一 十 五 錢
郵 稅 四 錢

發行所

東京市京橋區南大工町一番地

弘道館

(電話本局二八四〇番)

文學士 北澤定吉先生新著

哲學史綱

洋裝脊皮菊判形
全一册
正價金九十錢
郵稅金十錢

哲學は諸學の大本にして教育學倫理學心理學とは密接不離の關係を有するものなり。識見非凡なる教育者の斯學の研究に由りて、倫理心理教育等に關する根底ある知識を得んとするもの故なしとせず。唯憾む哲學の大綱を説きて簡明なる良書なきを。本書は「哲學史即哲學」の立場より、哲學史の大綱を示し、兼ねて哲學の大綱を説けるもの、本書を措きて何處にか哲學の大綱を學ばん。試に本書の特色を列舉すれば、

本書の特色

- ▲本書は大學院にありて専心哲學を研究しつゝある著者が四年の苦心を経て集め得たる數千頁の材料中より其粹を抜きたるものなり
- ▲本書は在來の哲學史の如く列傳體をとらず、意を用ひて學說の發展を辿り思想變遷の跡歷々として掌を指すが如きものなり
- ▲本書はカント以後最近世の哲學を略叙する在來の哲學史に慚焉たらず特に意をこの部分に用ひしものなり
- ▲本書は巧に哲學史と哲學概論とを統合してこれを系統的に叙述し且つ學語人名の索引をも附して哲學辭書の用を兼ねるものなり

後付の七

發行所 東南市大橋區 弘道館 電話本局 二八四〇

賣捌店は全國到處有名書店にはありませぬ

好評嘖々たる遊戯書

廣島高等師範學校教師 吉田信太先生作曲
廣島高等師範學校教師 原 藤藏先生作技

(好評七版發賣)

國定
讀本
唱歌遊戯教授書

洋裝菊判色クロス無類の美本
尋常科の部 全一冊 正價金八拾錢
高等科の部 全一冊 正價金八拾錢
郵稅拾錢

▲讀め……唱歌遊戯教授に新光明を發はさんとする教育家は

▲讀め……訓育上、體育上、効果を顯はさんと教育家は

▲讀め……戰後に於る勇健の國民を養成せんと教育家は

『教育新聞』批評の末項に特に編述の方法の慎重親切なる綿密の圖畫數十葉を挿入して説明を補
け並に其目的効用及教授の注意を述べ更に各技に理論を附記したる等教授者の便利少からず今
や體操に關しての良著述あるも遊戯に關しては殆んど師とするものなき有様なる場合に當り教
員の好伴侶たるもの恐らく此書を外にして他に求むべからざるべし

後付の八

發行所 東京區南大町一 弘道館

教育家の必讀書

▲ 輓近の新好著 ▼

醫學博士 瀨川昌耆先生校閱
福岡縣師範學校主事 織田勝馬先生
長崎縣立高等女學校教諭 白土千秋先生
合著

小學
兒童
劣等生
救濟の原理及其方法

好評四版發賣

洋裝菊判形全一册 (正) 價金六十錢
郵稅金六錢

近時教育に關する諸般の研究殆んど至らざるなし然るに獨り劣等生に關する根本的研究と之が救濟法たる實濟的攻究とに關し會て好著の公にせられたるものあるを見ず而も該問題に對する現今實地教育家の態度は宛も大早に雲霓を望むが如きものあり蓋本書は時運の產出物と見る可きものなり乞ふ左の條記に依て本書の價値の一斑を推知せられよ

△本書は先づ劣等生の意義を確定し之が救濟上の教育的可能を論せり

△本書は劣等生に關する各種の原因を詳に探究し之に對する教育的取扱法を極めて實際的に説

述せり

△本書は劣等生救濟に關する教育的任務と醫治的任務との區別を明かにせり

△本書は劣等生救濟法としての人格變換論を説述したり

△本書は劣等生取扱法に關する諸方案并に特殊教授法及各教科目につき教授上の實驗的注意を

詳述せり

後付九

發 兌 東 京 橋 本 區 南 大 工 町 一 番 弘 道 館



▲日本家庭辭書要目▼



後付の十

- 一、家庭組織、
- 二、結婚制度、
- 三、家庭行事、
- 四、家庭要具、
- 五、工藝品（織物、陶、漆器等）
- 六、家庭衛生（衣、食、住の衛生、沐浴、各機官の衛生、看病法、疾病、應急療法、婦人衛生、小兒衛生、）
- 七、家庭法律（出生、死亡、相続、婚姻、戶籍民法に關するもの）
- 八、家庭道徳
- 九、家庭禮儀（和洋禮式）
- 十、家庭交際（交際と修養及び交際の要訣等）
- 十一、交通制度、
- 十二、家庭宗教（神、儒、佛、耶蘇教、信仰と迷信等）
- 十三、家庭教育（知、徳、體、美育、女子教育、精神的病弊矯正法）
- 十四、家庭經濟、
- 十五、家庭料理（日本料理、西洋料理）
- 十六、裁縫洗濯（裁縫、洗濯、汚點拔の心得）
- 十七、家庭園藝、
- 十八、家庭養畜、
- 十九、家庭娛樂（娛樂、生花、茶の湯、音樂）
- 二十、家庭遊戯（家庭に行はれ易き和洋遊戯）

以上二十項に分ち **必要なる項目千餘に亘つて懇切に説明を與たり。**

見本御入用の方は無代進呈す

文學士 北澤定吉先生著

●再版

偉人耶蘇

洋裝 菊判
總クローズ美本
全一册
正價 金七拾錢
郵稅 金八錢

神祕説に同情を有してしかも知識を輕視せず、基督其人を教仰して、しかも基督教徒たらず、専心哲學を究めて宇宙の繼を解かんと欲す、かゝる立脚地にある著者が、鋭き批評眼もて四編學書を精讀し、「人としての基督は如何なる儀表を與ふるか」てふ趣味ある問題を究めて、新しき解釋を基督其人に與へしは本書なり。基督の人格を中心として、基督教の倫理を説き、實踐道法を論ず。議論正大文章優雅、讀まば正さに基督を地下に起してこれと語るの感あるべし。先づ已自らを修養し、身を以て弟子を率ひんとする**教師諸君**は、本書に於て**好指導**を發見すべし

發行所

東京市京橋區南大工町一番地

弘道館

(電話本局二八四〇番)

家庭新教育書と無類の少年年讀物

女子高等師範學校教諭 東 基吉先生著

日曜讀本

菊判形頗ル美本 口繪國觀、香雪挿畫數十種

▲未曾有の珍本である

前東京高等師範學校教授 樋口勘次郎先生著

強い日本

口繪尾竹國觀◎一條成美 挿畫 全一冊正價金十錢郵稅四錢

▲戰勝紀念少年の有益な讀物

樋口蘭林先生作◎宮川春汀口繪挿畫

歴史熊襲征伐

全一冊 正價金十錢 郵稅四錢

△これまで類のない珍本である

△家庭でも學校でも芝居が出来て面白き本

後付十二

樋口勘次郎先生著 國觀春汀畫

日本の覺悟

▲菊判形頗ル美本口繪挿畫十數種 個人價金十五錢郵稅四錢

樋口蘭林先生作◎宮川春汀畫

歴史 入鹿退治

○菊判形全一冊口繪挿畫六葉挿畫 入價十五錢郵稅四錢

農學士吉村清尚先生著 國觀◎禾 月畫口畫

米の話

△菊判類ル美本口繪十數度採色 石版挿畫十數個定價十五錢

從來發刊せしか伽喃と同一視する勿れ弊店發兌の少年讀本は未曾有の仕組で兒童として面白き伽喃を見る中に知らず識らずの間頭腦に新空氣を注入する方法なり

發兌元

東京電話 橋本局 大工町一丁目番 弘道館

弘道館

病は動悸、息切れ、肺病、貧血症、婦人血の道、殊に産後、の経過不良症、其他氣力減乏症、平素身體薄弱、

服用し易き美味の良薬



の爲め病に罹り易き人。過度に身體或は精神を費す人等は此「大木五臟丸」を服用して見給へ

本舖 東京兩國米澤町 大木口哲本店
 發賣 東京神田鍛冶町 大木合名會社

全國藥店にあり大木五臟丸に注目を乞ふ

▲藥價 卅五分二分、四十五分一分、七月分、五十錢、四日分三十錢、二分十五錢

會告

本會に御入會なされんとする方は、會則にある通り會費は一ヶ月金拾錢ですから其割合で何ヶ月分かを纏めて東京京橋區南大工町一番地書肆弘道館へ御送金の上本會へ御申込下さい、さすれば雜誌は該館より御送付致します。會員にならずに雜誌だけ讀みたい方は左の割合で矢張全館へ御注文下さい、

一冊金拾錢六冊前金五拾七錢貳冊金一圓拾錢外に郵税一冊五厘づゝ、

明治卅九年八月一日印刷
 同 年八月五日發行

禁轉載

發行所 編輯者兼 印刷者
 辻本卯藏 東京市京橋區南大工町一番地
 日下主計 東京市神田區錦町一丁目十九番地
 フレネルベル會 女子高等師範學校附屬幼稚園内

發賣元

弘道館
 東京市京橋區南大工町一番地
 (電話本局二八四〇)

大賣捌 神田表神保町 東京堂 銀座 東海堂

序 先生了圓上井 士博學文 先生郎次哲上井 士博學文
 先生先子歌田下 長部學女院習學 先生先郎次勇良元 士博學文

西山哲治先生編 (家庭の小圖書館)

日本家庭辭書

中村不折の三色版口繪挿入
 ●四六判形總クロ、
 頗ル美本全壹冊
 ●舶來上等紙摺
 ●紙數約八百頁
 ●定價金壹圓三十錢
 内地小包料十五錢

内容の見本御入用の方は往復はかきにて御申込あらば直に送附す

▲壹萬部限り特價九拾錢 (期限内ト雖モ滿數ノトキハ不得止正價) (ニ復スルコトアルベシ(小包料十五錢))

家庭問題は今に残され社會問題とし 戰捷後必然に社會の要求する時代急需の聲に應じて世に出づる家庭向きの著 尠からず惜しむべく多く一時的際物の零片を以て充即ち編 西山先生此に周到の用意 多大の苦心、抱負を以て本書を編纂せられたれば、家庭に依ては此れ光明に浴し新し福音に接するもらざるを 幸に世の流行的一夜作の駄編とする勿れ。本書の内容は家庭組織、結婚制度、法律、道徳、交際、交通、禮儀、教育、宗教、衛生、家具、經濟、行事、料理、裁縫、洗濯汚點拔、園藝、養畜、生花、茶道、音樂、遊戲等に最も家庭に必要粹を抜千餘項を選択し、五十音順に配列し説明懇切荷も家庭に關して細大漏さず忠實なる家庭の顧問たるを即ち本書を家庭必備の寶典として一般の進物に結婚出産の贈物として薦め、又教育に熱心なる各學校教育家及學生諸君 備品として、幸に購讀の榮を賜はらん。

明治三十四年二月六日 丙 務 省 許 可
 三月廿八日 第三種郵便物認可

館道弘 一町工大南區橋京京東 元兌發
 ○四八二局本誌電